

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2002-163355

(43)Date of publication of application : 07.06.2002

(51)Int.Cl.

G06F 17/60

(21)Application number : 2000-358554

(71)Applicant : WEB MD KK

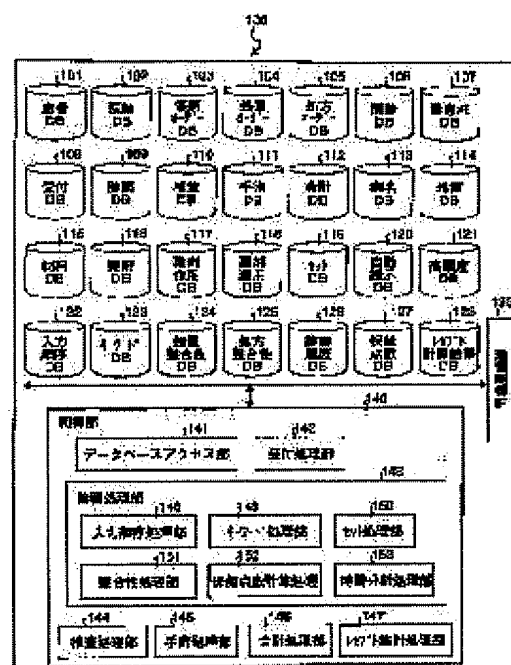
(22)Date of filing : 24.11.2000

(72)Inventor : YO HIROTAKE

(54) SYSTEM AND METHOD FOR MANAGING MEDICAL INFORMATION AND RECORDING MEDIUM**(57)Abstract:**

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a medical information managing system or the like capable of totally managing/effectively utilizing medical information.

SOLUTION: This medical information managing system is provided with a disease order DB 103 for storing information for specifying the disease name of each of patients, a treatment order DB 104 for storing information for specifying the contents of treatment to each of patients, a prescription order DB 105 for storing information for specifying the contents of a prescription to each of patients, and a database access part 141 for inputting/outputting information to each of these DB.



(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2002-163355

(P2002-163355A)

(43) 公開日 平成14年6月7日(2002.6.7)

(51) Int.Cl.⁷
G 0 6 F 17/60

識別記号
1 2 6

F I
G 0 6 F 17/60

テーマコード(参考)

1 2 6 A

審査請求 未請求 請求項の数21 O L (全 33 頁)

(21) 出願番号 特願2000-358554(P2000-358554)

(22) 出願日 平成12年11月24日(2000.11.24)

(71) 出願人 399023626

ウェブエムディ株式会社

東京都中央区新川1-3-3 第17ビル4階

(72) 発明者 楊 浩勇

東京都中央区新川1丁目3番3号 ウェブエムディ株式会社内

(74) 代理人 100089118

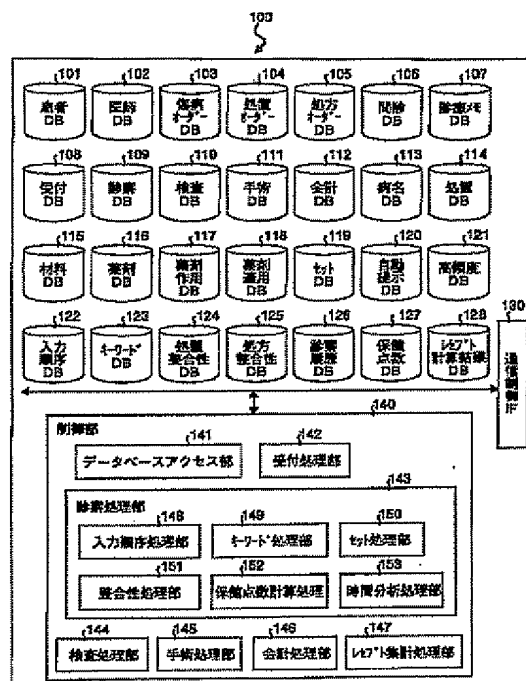
弁理士 酒井 宏明

(54) 【発明の名称】 医療情報管理システム、医療情報管理方法、および、記録媒体

(57) 【要約】

【課題】 医療情報を総合的に管理・活用等することができる、医療情報管理システム等を提供することを課題とする。

【解決手段】 本発明にかかる医療情報管理システムは、各患者の傷病名を特定するための情報を格納する傷病オーダーDB103と、各患者に対する処置の内容を特定するための情報を格納する処置オーダーDB104と、各患者に対する処方の内容を特定するための情報を格納する処方オーダーDB105と、これら各DBに対する情報の入出力を行うデータベースアクセス部141とを備える。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 各患者の傷病名を特定するための情報を格納する傷病オーダー格納手段と、
各患者に対する処置の内容を特定するための情報を格納する処置オーダー格納手段と、
各患者に対する処方の内容を特定するための情報を格納する処方オーダー格納手段と、
上記傷病オーダー格納手段、処置オーダー格納手段、または、処方オーダー格納手段に対する情報の入出力を行う情報入出力処理手段と、
を備えることを特徴とする医療情報管理システム。

【請求項2】 上記傷病名の医学病名を特定するための情報と、上記傷病名の保険病名を特定するための情報とを、相互に関連付けて格納する傷病名格納手段、を備えることを特徴とする請求項1に記載の医療情報管理システム。

【請求項3】 医療に関する情報のキーワードを格納するキーワード格納手段と、
上記キーワード格納手段に格納されたキーワードを選択可能に出力し、選択されたキーワードを上記医療に関する情報の入力内容として受け付けるキーワード処理手段と、
を備えることを特徴とする請求項1または2に記載の医療情報管理システム。

【請求項4】 各傷病名に該当する患者に行う処置の内容または処方の内容を特定するための情報を格納するセット格納手段と、
患者の傷病名が特定された際、上記セット格納手段に格納された情報に基づいて、上記患者に対して行う処置の内容または処方の内容を出力する提示するセット処理手段と、
を備えることを特徴とする請求項1～3のいずれか一つに記載の医療情報管理システム。

【請求項5】 各傷病名を特定するための情報と、各傷病名に該当する患者に行うべき処置の内容または処方の内容との、相互の整合性に関する情報を格納する整合性格納手段と、
傷病名と、処置の内容または処方の内容とが特定された際、整合性格納手段に格納された情報に基づいて、当該特定された傷病名と処置の内容または処方の内容との相互の整合性を判断する整合性処理手段と、
を備えることを特徴とする請求項1～4のいずれか一つに記載の医療情報管理システム。

【請求項6】 患者が医療に関与した時間に関する情報を格納する時間格納手段と、
上記時間格納手段に格納された情報に基づいて、患者が医療に関与した時間に関する分析を行う時間分析処理手段と、
を備えることを特徴とする請求項1～5のいずれか一つに記載の医療情報管理システム。

【請求項7】 各処置または各処方を行なった際の保険点数を格納する保険点数格納手段と、
上記傷病オーダー格納手段、上記処置オーダー格納手段、または、上記処方オーダー格納手段に情報が格納される毎に、これら格納された情報と、上記保険点数格納手段に格納された情報とに基づいて、保険点数を計算する保険点数計算処理手段と、
を備えることを特徴とする請求項1～6のいずれか一つに記載の医療情報管理システム。

10 【請求項8】 各処置または各処方を行なった際の保険点数を格納する保険点数格納手段と、
上記傷病オーダー格納手段、上記処置オーダー格納手段、または、上記処方オーダー格納手段に格納された情報と、上記保険点数格納手段に格納された情報とに基づいて、レセプト出力に必要となる数値の集計を行うレセプト集計処理手段と、
を備えることを特徴とする請求項1～7のいずれか一つに記載の医療情報管理システム。

20 【請求項9】 傷病名毎の定額料金を格納する定額料金格納手段と、
処置毎または処方毎の単価を格納する単価格納手段と、
傷病名と処置の内容または処方の内容とが特定された際、上記定額料金格納手段に格納された情報に基づいて、上記特定された傷病名の定額料金を取得すると共に、上記定額料金格納手段および上記単価格納手段に格納された情報に基づいて、当該特定された処置の内容または当該特定された処方の内容に対する合計金額を算出し、これら定額料金と合計金額とを出力させる金額算定手段と、
30 を備えることを特徴とする請求項1～8のいずれか一つに記載の医療情報管理システム。

【請求項10】 医療情報の管理を行うための医療情報管理装置と、この医療情報に基づくレセプトの集計処理を行うためのレセプト集計処理装置とを、ネットワークを介して通信可能に接続して構成された医療情報管理システムであって、
上記医療情報管理装置は、
各患者の傷病名を特定するための情報を格納する傷病オーダー格納手段と、
各患者に対する処置の内容を特定するための情報を格納する処置オーダー格納手段と、
各患者に対する処方の内容を特定するための情報を格納する処方オーダー格納手段とを備え、
上記レセプト集計処理装置は、
各処置または各処方を行なった際の保険点数を格納する保険点数格納手段と、
上記傷病オーダー格納手段、上記処置オーダー格納手段、または、上記処方オーダー格納手段に格納された情報であって、上記医療情報管理装置から送信された情報と、上記保険点数格納手段に格納された情報とに基づい

て、レセプト出力に必要な数値の集計を行うレセプト集計処理手段とを備えることを、
特徴とする医療情報管理システム。

【請求項11】 各患者の傷病名を特定するための情報を格納する傷病オーダー格納手順と、
各患者に対する処置の内容を特定するための情報を格納する処置オーダー格納手順と、
各患者に対する処方の内容を特定するための情報を格納する処方オーダー格納手順と、
を備えることを特徴とする医療情報管理方法。

【請求項12】 上記傷病名の医学病名を特定するための情報と、上記傷病名の保険病名を特定するための情報とを、相互に関連付けて格納する傷病名格納手順、
を備えることを特徴とする請求項11に記載の医療情報管理方法。

【請求項13】 医療に関する情報のキーワードを格納するキーワード格納手順と、
上記キーワード格納手順において格納されたキーワードを選択可能に出力し、選択されたキーワードを上記医療に関する情報の入力内容として受け付けるキーワード処理手順と、
を備えることを特徴とする請求項11または12に記載の医療情報管理方法。

【請求項14】 各傷病名に該当する患者に行う処置の内容または処方の内容を特定するための情報を格納するセット格納手順と、
患者の傷病名が特定された際、上記セット格納手順において格納された情報に基づいて、上記患者に対して行う処置の内容または処方の内容を出力する提示するセット処理手順と、
を備えることを特徴とする請求項11～13のいずれか一つに記載の医療情報管理方法。

【請求項15】 各傷病名を特定するための情報と、各傷病名に該当する患者に行うべき処置の内容または処方の内容との、相互の整合性に関する情報を格納する整合性格納手順と、
傷病名と、処置の内容または処方の内容とが特定された際、整合性格納手順に格納された情報に基づいて、当該特定された傷病名と処置の内容または処方の内容との相互の整合性を判断する整合性処理手順と、
を備えることを特徴とする請求項11～14のいずれか一つに記載の医療情報管理方法。

【請求項16】 患者が医療に関与した時間に関する情報を格納する時間格納手順と、
上記時間格納手順において格納された情報に基づいて、患者が医療に関与した時間に関する分析を行う時間分析処理手順と、
を備えることを特徴とする請求項11～15のいずれか一つに記載の医療情報管理方法。

【請求項17】 各処置または各処方を行なった際の保

険点数を格納する保険点数格納手順と、
上記傷病オーダー格納手順、上記処置オーダー格納手順、または、上記処方オーダー格納手順において格納された情報が格納される毎に、これら格納された情報と、上記保険点数格納手順に格納された情報とに基づいて、保険点数を計算する保険点数計算処理手順と、
を備えることを特徴とする請求項11～16のいずれか一つに記載の医療情報管理方法。

【請求項18】 各処置または各処方を行なった際の保険点数を格納する保険点数格納手順と、
上記傷病オーダー格納手順、上記処置オーダー格納手順、または、上記処方オーダー格納手順において格納された情報と、上記保険点数格納手順において格納された情報とに基づいて、レセプト出力に必要な数値の集計を行うレセプト集計処理手順と、
を備えることを特徴とする請求項11～17のいずれか一つに記載の医療情報管理方法。

【請求項19】 傷病名毎の定額料金を格納する定額料金格納手順と、
処置毎または処方毎の単価を格納する単価格納手順と、
傷病名と処置の内容または処方の内容とが特定された際、上記定額料金格納手順に格納された情報に基づいて、上記特定された傷病名の定額料金を取得すると共に、上記定額料金格納手順および上記単価格納手順に格納された情報に基づいて、当該特定された処置の内容または当該特定された処方の内容に対する合計金額を算出し、これら定額料金と合計金額とを出力させる金額算定手順と、
を備えることを特徴とする請求項11～18のいずれか一つに記載の医療情報管理方法。

【請求項20】 医療情報の管理を行うための医療情報管理装置と、この医療情報に基づくレセプトの集計処理を行うためのレセプト集計処理装置とを、ネットワークを介して通信可能に接続して構成された医療情報管理システムにおいて、医療情報の管理を行う医療情報管理方法であって、
各患者の傷病名を特定するための情報を上記医療情報管理装置に格納する傷病オーダー格納手順と、
各患者に対する処置の内容を特定するための情報を上記医療情報管理装置に格納する処置オーダー格納手順と、
各患者に対する処方の内容を特定するための情報を上記医療情報管理装置に格納する処方オーダー格納手順と、
各処置または各処方を行なった際の保険点数を上記レセプト集計処理装置に格納する保険点数格納手順と、
上記傷病オーダー格納手順、上記処置オーダー格納手順、または、上記処方オーダー格納手順において格納された情報と、上記医療情報管理装置から送信された情報と、上記保険点数格納手順において格納された情報とに基づいて、レセプト出力に必要な数値の集計を行うレセプト集計処理手順とを備えることを、

特徴とする医療情報管理方法。

【請求項21】 上記請求項11～20のいずれか一つに記載された医療情報管理方法をコンピュータに実行させるためのプログラムを記録したことを特徴とするコンピュータ読み取り可能な記録媒体。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、医師が患者を診断等した際の各種情報を管理するための、医療情報管理システム、医療情報管理方法、および、記録媒体に関する。

【0002】

【従来の技術】 従来から、医療情報に関する管理を行うためのシステムとしては、レセプトコンピュータシステム（通称、レセコン）が提案され利用されている。このレセコンとは、医師が行なった処置や処方の内容に基づいて保険点数を計算し、この保険点数に基づいて診療報酬明細書（通称、レセプト）を作成等するシステムである。このレセプトが所定の支払い基金に提出されると、その内容に応じて、病院等に保険金額が支払われる。したがって、レセプトを作成等するためのレセコンは、病院経営上の必要性等から重要視されており、徐々に普及している。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 ここで、医師が患者を診断等する際には、膨大な情報を管理することが必要になる。具体的には、少なくとも、各患者の氏名や住所等の個人情報、各患者の保険証番号等の保険関連の情報、各患者に対する診断結果や処置等の内容を記録することが必要になる。しかしながら、従来の医療情報の管理システムは、上記のようにレセプトの作成等を目的として構築されたレセコンが主体であり、レセプトの作成等に必要がない情報については、依然として医師がカルテ等の紙媒体に記録していた。したがって、医療情報を管理・活用等することが極めて困難であり、また、このことから、医療情報を総合的に管理・活用等することができるシステムが構築されることが熱望されていた。

【0004】 本発明は上記問題に鑑みてなされたもので、医療情報を総合的に管理・活用等することができる、医療情報管理システム、医療情報管理方法、および、記録媒体を提供することを目的としている。

【0005】

【課題を解決するための手段】 このような目的を達成するため、請求項1に記載の医療情報管理システムは、各患者の傷病名を特定するための情報を格納する傷病オーダー格納手段と、各患者に対する処置の内容を特定するための情報を格納する処置オーダー格納手段と、各患者に対する処方の内容を特定するための情報を格納する処方オーダー格納手段と、上記傷病オーダー格納手段、処

置オーダー格納手段、または、処方オーダー格納手段に対する情報の入出力を行う情報入出力処理手段とを備えることを特徴とする。

【0006】 このシステムによれば、傷病名を特定するための情報、処置の内容を特定するための情報、および、処方の内容を特定するための情報が格納される。したがって、これら各情報に対する検索等の各種の処理を行うことができ、医療情報を総合的に管理・活用等することができる。なお、「オーダー」とは、医師が、傷病名、処置、または、処方を特定することを意味する。また、「処置」には、いわゆる「検査」も含まれるものとする。

【0007】 また、請求項2に記載の医療情報管理システムは、請求項1に記載の医療情報管理システムにおいて、上記傷病名の医学病名を特定するための情報と、上記傷病名の保険病名を特定するための情報とを、相互に関連付けて格納する傷病名格納手段を備えることを特徴とする。

【0008】 このシステムによれば、医学病名を特定するための情報と、保険病名を特定するための情報とが相互に関連付けて格納される。したがって、医学病名から保険病名を導くことや、保険病名から医学病名を導くこと等を容易に行うことができ、医師が使用したい医学病名と、レセプト集計時に必要になる保険病名とを容易に切り替えて使用することができる。

【0009】 また、請求項3に記載の医療情報管理システムは、請求項1または2に記載の医療情報管理システムにおいて、医療に関する情報のキーワードを格納するキーワード格納手段と、上記キーワード格納手段に格納されたキーワードを選択可能に出力し、選択されたキーワードを上記医療に関する情報の入力内容として受け付けるキーワード処理手段とを備えることを特徴とする。

【0010】 このシステムによれば、医療に関する情報のキーワードが格納され、選択されたキーワードが、医療に関する情報の入力内容として受け付けられる。したがって、医療に関する情報の入力を、キーワードを用いて行うことができ、入力ミスや非標準の言葉による入力を回避することができる。また、このように標準的な言葉によって入力が行なわれるので、情報検索時の検索効率を高めることができる。

【0011】 また、請求項4に記載の医療情報管理システムは、請求項1～3のいずれか一つに記載の医療情報管理システムにおいて、各傷病名に該当する患者に行う処置の内容または処方の内容を特定するための情報を格納するセット格納手段と、患者の傷病名が特定された際、上記セット格納手段に格納された情報に基づいて、上記患者に対して行う処置の内容または処方の内容を出力する提示するセット処理手段とを備えることを特徴とする。

【0012】 このシステムによれば、各傷病名に該当す

10

20

30

40

50

る患者に行う処置の内容または処方の内容を特定するための情報が格納され、患者の傷病名が特定された際、患者に対して行う処置の内容または処方の内容が出力される。したがって、処置や処方の内容を入力する際、これらの内容を個別的に入力しなくても、所定の内容を容易に入力することができる。このため、入力が容易になると共に、入力ミスを防止することができる。また、医療法人毎に、標準的な処置や処方の方針が異なる場合においても、この標準的な処置や処方を容易に選択することができるので、標準処置や標準処方の使い分けやその徹底が容易になる。

【0013】また、請求項5に記載の医療情報管理システムは、請求項1～4のいずれか一つに記載の医療情報管理システムにおいて、各傷病名を特定するための情報と、各傷病名に該当する患者に行うべき処置の内容または処方の内容との、相互の整合性に関する情報を格納する整合性格納手段と、傷病名と、処置の内容または処方の内容とが特定された際、整合性格納手段に格納された情報に基づいて、当該特定された傷病名と処置の内容または処方の内容との相互の整合性を判断する整合性処理手段とを備えることを特徴とする。

【0014】このシステムによれば、各傷病名を特定するための情報と、各傷病名に該当する患者に行うべき処置の内容または処方の内容との、相互の整合性に関する情報が格納され、傷病名と、処置の内容または処方の内容とが特定された際、当該特定された傷病名と処置の内容または処方の内容との相互の整合性が判断される。したがって、傷病名に対して不適切な処置の内容または処方の内容がある場合には、その旨を容易に確認することができ、入力ミスや判断ミス等を防止することができる。

【0015】また、請求項6に記載の医療情報管理システムは、請求項1～5のいずれか一つに記載の医療情報管理システムにおいて、患者が医療に関与した時間に関する情報を格納する時間格納手段と、上記時間格納手段に格納された情報に基づいて、患者が医療に関与した時間に関する分析を行う時間分析処理手段とを備えることを特徴とする。

【0016】このシステムによれば、患者が医療に関与した時間に関する情報が格納され、この時間に関する分析が行なわれる。したがって、医療コストにおいて最も大きな比重を占める医師の person 費等を把握したり、その他、様々な観点から時間的数値を把握することができるので、病院の経営改善等を容易かつ的確に行うことができる。

【0017】また、請求項7に記載の医療情報管理システムは、請求項1～6のいずれか一つに記載の医療情報管理システムにおいて、各処置または各処方を行なった際の保険点数を格納する保険点数格納手段と、上記傷病

は、上記処方オーダー格納手段に情報が格納される毎に、これら格納された情報と、上記保険点数格納手段に格納された情報とに基づいて、保険点数を計算する保険点数計算処理手段とを備えることを特徴とする。

【0018】このシステムによれば、各処置または各処方を行なった際の保険点数が格納され、保険点数が計算される。特に、傷病名、処置、あるいは、処方が行なわれる毎に保険点数が計算されるので、この保険点数をオーダー画面に出力すること等によってほぼリアルタイムに確認することができ、保険点数を把握しながらオーダーを行うことが可能になる。

【0019】また、請求項8に記載の医療情報管理システムは、請求項1～7のいずれか一つに記載の医療情報管理システムにおいて、各処置または各処方を行なった際の保険点数を格納する保険点数格納手段と、上記傷病オーダー格納手段、上記処置オーダー格納手段、または、上記処方オーダー格納手段に格納された情報と、上記保険点数格納手段に格納された情報とに基づいて、レセプト出力に必要な数値の集計を行うレセプト集計処理手段とを備えることを特徴とする。

【0020】このシステムによれば、各処置または各処方を行なった際の保険点数が格納され、レセプト出力に必要な数値が集計される。したがって、この数値を印刷等することによって、レセプトを発行等することができ、レセプト処理を容易に行うことができる。

【0021】また、請求項9に記載の医療情報管理システムは、請求項1～8のいずれか一つに記載の医療情報管理システムにおいて、傷病名毎の定額料金を格納する定額料金格納手段と、処置毎または処方毎の単価を格納する単価格納手段と、傷病名と処置の内容または処方の内容とが特定された際、上記定額料金格納手段に格納された情報に基づいて、上記特定された傷病名の定額料金を取得すると共に、上記定額料金格納手段および上記単価格納手段に格納された情報に基づいて、当該特定された処置の内容または当該特定された処方の内容に対する合計金額を算定し、これら定額料金と合計金額とを出力させる金額算定手段とを備えることを特徴とする。

【0022】このシステムによれば、傷病名毎の定額料金と、処置毎または処方毎の単価とが格納され、処置の内容または当該特定された処方の内容に対する合計金額が算定され、定額料金と合計金額とが出力される。したがって、医療料金が定額制に移行したような場合において、この定額料金と、処置や処方の合計料金とを容易に把握および比較することができ、コストを意識しながら処置オーダー等を行うことができる。

【0023】また、請求項10に記載の医療情報管理システムは、医療情報の管理を行うための医療情報管理装置と、この医療情報に基づくレセプトの集計処理を行うためのレセプト集計処理装置とを、ネットワークを介して通信可能に接続して構成された医療情報管理システム

10

20

30

40

50

であって、上記医療情報管理装置は、各患者の傷病名を特定するための情報を格納する傷病オーダー格納手段と、各患者に対する処置の内容を特定するための情報を格納する処置オーダー格納手段と、各患者に対する処方の内容を特定するための情報を格納する処方オーダー格納手段とを備え、上記レセプト集計処理装置は、各処置または各処方を行なった際の保険点数を格納する保険点数格納手段と、上記傷病オーダー格納手段、上記処置オーダー格納手段、または、上記処方オーダー格納手段に格納された情報であって、上記医療情報管理装置から送信された情報と、上記保険点数格納手段に格納された情報とに基づいて、レセプト出力に必要となる数値の集計を行うレセプト集計処理手段とを備えることを特徴とする。

【0024】このシステムによれば、医療情報管理装置には、各患者の傷病名を特定するための情報と、各患者に対する処置の内容を特定するための情報と、各患者に対する処方の内容を特定するための情報とが格納され、レセプト集計処理装置には、各処置または各処方を行なった際の保険点数が格納され、レセプト出力に必要となる数値の集計が行なわれる。したがって、この数値を印刷等することによって、レセプトを発行等することができ、レセプト処理を容易に行うことができる。特に、この場合には、複数の病院等に配置された医療情報管理装置からの情報に基づいて、これら各病院のレセプトの集計をレセプト集計処理装置において集中的に行うことができる。したがって、複雑で高価なシステムを個別的に導入する経済的負担が軽減され、また、法改正や薬価改正等に伴うシステム変更を容易に行うことができる。

【0025】また、本発明は医療情報管理方法に関するものであり、請求項11に記載の医療情報管理方法は、各患者の傷病名を特定するための情報を格納する傷病オーダー格納手段と、各患者に対する処置の内容を特定するための情報を格納する処置オーダー格納手段と、各患者に対する処方の内容を特定するための情報を格納する処方オーダー格納手段とを備えることを特徴とする。

【0026】この方法によれば、傷病名を特定するための情報、処置の内容を特定するための情報、および、処方の内容を特定するための情報が格納される。したがって、これら各情報に対する検索等の各種の処理を行うことができ、医療情報を総合的に管理・活用等することができる。

【0027】また、請求項12に記載の医療情報管理方法は、請求項11に記載の医療情報管理方法において、上記傷病名の医学病名を特定するための情報と、上記傷病名の保険病名を特定するための情報とを、相互に関連付けて格納する傷病名格納手段を備えることを特徴とする。

【0028】この方法によれば、医学病名を特定するための情報と、保険病名を特定するための情報とが相互に

関連付けて格納される。したがって、医学病名から保険病名を導くことや、保険病名から医学病名を導くこと等を容易に行うことができ、医師が使用したい医学病名と、レセプト集計時に必要になる保険病名とを容易に切り替えて使用することができる。

【0029】また、請求項13に記載の医療情報管理方法は、請求項11または12に記載の医療情報管理方法において、医療に関する情報のキーワードを格納するキーワード格納手段と、上記キーワード格納手段において格納されたキーワードを選択可能に出力し、選択されたキーワードを上記医療に関する情報の入力内容として受け付けるキーワード処理手段とを備えることを特徴とする。

【0030】この方法によれば、医療に関する情報のキーワードが格納され、選択されたキーワードが、医療に関する情報の入力内容として受け付けられる。したがって、医療に関する情報の入力を、キーワードを用いて行うことができ、入力ミスや非標準の言葉による入力を回避することができる。また、このように標準的な言葉によって入力が行なわれるので、情報検索時の検索効率を高めることができる。

【0031】また、請求項14に記載の医療情報管理方法は、請求項11～13のいずれか一つに記載の医療情報管理方法において、各傷病名に該当する患者に行う処置の内容または処方の内容を特定するための情報を格納するセット格納手段と、患者の傷病名が特定された際、上記セット格納手段において格納された情報に基づいて、上記患者に対して行う処置の内容または処方の内容を出力する提示するセット処理手段とを備えることを特徴とする。

【0032】この方法によれば、各傷病名に該当する患者に行う処置の内容または処方の内容を特定するための情報が格納され、患者の傷病名が特定された際、患者に対して行う処置の内容または処方の内容が出力される。したがって、処置や処方の内容を入力する際、これらの内容を個別的に入力しなくても、所定の内容を容易に入力することができる。このため、入力が容易になると共に、入力ミスを防止することができる。また、医療法人毎に、標準的な処置や処方の方針が異なる場合においても、この標準的な処置や処方を容易に選択することができるので、標準処置や標準処方の使い分けやその徹底が容易になる。

【0033】また、請求項15に記載の医療情報管理方法は、請求項11～14のいずれか一つに記載の医療情報管理方法において、各傷病名を特定するための情報と、各傷病名に該当する患者に行うべき処置の内容または処方の内容との、相互の整合性に関する情報を格納する整合性格納手段と、傷病名と、処置の内容または処方の内容とが特定された際、整合性格納手段に格納された情報に基づいて、当該特定された傷病名と処置の内容と

10

20

30

40

50

たは処方内容との相互の整合性を判断する整合性処理手順とを備えることを特徴とする。

【0034】この方法によれば、各傷病名を特定するための情報と、各傷病名に該当する患者に行うべき処置の内容または処方内容との、相互の整合性に関する情報が格納され、傷病名と、処置の内容または処方内容とが特定された際、当該特定された傷病名と処置の内容または処方内容との相互の整合性が判断される。したがって、傷病名に対して不適切な処置の内容または処方内容がある場合には、その旨を容易に確認することができる。

【0035】また、請求項16に記載の医療情報管理方法は、請求項11～15のいずれか一つに記載の医療情報管理方法において、患者が医療に関与した時間に関する情報を格納する時間格納手順と、上記時間格納手順において格納された情報に基づいて、患者が医療に関与した時間に関する分析を行う時間分析処理手順とを備えることを特徴とする。

【0036】この方法によれば、患者が医療に関与した時間に関する情報が格納され、この時間に関する分析が行なわれる。したがって、医療コストにおいて最も大きな比重を占める医師の件数等を把握したり、その他、様々な観点から時間的数値を把握することができるので、病院の経営改善等を容易かつ的確に行うことができる。

【0037】また、請求項17に記載の医療情報管理方法は、請求項11～16のいずれか一つに記載の医療情報管理方法において、各処置または各処方を行なった際の保険点数を格納する保険点数格納手順と、上記傷病オーダー格納手順、上記処置オーダー格納手順、または、上記処方オーダー格納手段に情報が格納される毎に、これら格納された情報と、上記保険点数格納手順に格納された情報とに基づいて、保険点数を計算する保険点数計算処理手順とを備えることを特徴とする。

【0038】この方法によれば、各処置または各処方を行なった際の保険点数が格納され、保険点数が計算される。特に、傷病名、処置、あるいは、処方が行なわれる毎に保険点数が計算されるので、この保険点数をオーダー画面に出力すること等によってほぼリアルタイムに確認することができ、保険点数を把握しながらオーダーを行うことが可能になる。

【0039】また、請求項18に記載の医療情報管理方法は、請求項11～17のいずれか一つに記載の医療情報管理方法において、各処置または各処方を行なった際の保険点数を格納する保険点数格納手順と、上記傷病オーダー格納手順、上記処置オーダー格納手順、または、上記処方オーダー格納手順において格納された情報と、上記保険点数格納手順において格納された情報とに基づいて、レセプト出力に必要な数値の集計を行うレセプト集計処理手順とを備えることを特徴とする。

【0040】この方法によれば、各処置または各処方を行なった際の保険点数が格納され、レセプト出力に必要な数値が集計される。したがって、この数値を印刷等することによって、レセプトを発行等することができ、レセプト処理を容易に行うことができる。

【0041】また、請求項19に記載の医療情報管理方法は、請求項11～18のいずれか一つに記載の医療情報管理方法において、傷病名毎の定額料金を格納する定額料金格納手順と、処置毎または処方毎の単価を格納する単価格納手順と、傷病名と処置の内容または処方内容とが特定された際、上記定額料金格納手順に格納された情報に基づいて、上記特定された傷病名の定額料金を取得すると共に、上記定額料金格納手順および上記単価格納手順に格納された情報に基づいて、当該特定された処置の内容または当該特定された処方内容に対する合計金額を算定し、これら定額料金と合計金額とを出力させる金額算定手順とを備えることを特徴とする。

【0042】この方法によれば、傷病名毎の定額料金と、処置毎または処方毎の単価とが格納され、処置の内容または当該特定された処方内容に対する合計金額が算定され、定額料金と合計金額とが出力される。したがって、医療料金が定額制に移行したような場合において、この定額料金と、処置や処方の合計料金とを容易に把握および比較することができ、コストを意識しながら処置オーダー等を行うことができる。

【0043】また、請求項20に記載の医療情報管理方法は、医療情報の管理を行うための医療情報管理装置と、この医療情報に基づくレセプトの集計処理を行うためのレセプト集計処理装置とを、ネットワークを介して通信可能に接続して構成された医療情報管理システムにおいて、医療情報の管理を行う医療情報管理方法であって、各患者の傷病名を特定するための情報を上記医療情報管理装置に格納する傷病オーダー格納手順と、各患者に対する処置の内容を特定するための情報を上記医療情報管理装置に格納する処置オーダー格納手順と、各患者に対する処方の内容を特定するための情報を上記医療情報管理装置に格納する処方オーダー格納手順と、各処置または各処方を行なった際の保険点数を上記レセプト集計処理装置に格納する保険点数格納手順と、上記傷病オーダー格納手順、上記処置オーダー格納手順、または、上記処方オーダー格納手順において格納された情報であって、上記医療情報管理装置から送信された情報と、上記保険点数格納手順において格納された情報とに基づいて、レセプト出力に必要な数値の集計を行うレセプト集計処理手順とを備えることを特徴とする。

【0044】この方法によれば、医療情報管理装置には、各患者の傷病名を特定するための情報と、各患者に対する処置の内容を特定するための情報と、各患者に対する処方の内容を特定するための情報とが格納され、レセプト集計処理装置には、各処置または各処方を行なっ

た際の保険点数が格納され、レセプト出力に必要となる数値の集計が行なわれる。したがって、この数値を印刷等することによって、レセプトを発行等することができ、レセプト処理を容易に行うことができる。特に、この場合には、複数の病院等に配置された医療情報管理装置からの情報に基づいて、これら各病院のレセプトの集計をレセプト集計処理装置において集中的に行うことができる。したがって、複雑で高価なシステムを個別的に導入する経済的負担が軽減され、また、法改正や薬価改正等に伴うシステム変更を容易に行うことができる。

【0045】また、本発明は記録媒体に関するものであり、請求項21に記載の本発明は、上記請求項11～20のいずれか一つに記載された医療情報管理方法をコンピュータに実行させるためのプログラムを記録したことを特徴とする。

【0046】この記録媒体によれば、当該記録媒体に記録されたプログラムをコンピュータに読み取らせて実行することによって、請求項11～20のいずれか一つに記載された医療情報管理方法をコンピュータを利用して実現することができ、これら各方法と同様の効果を得ることができる。

【0047】

【発明の実施の形態】以下に、本発明にかかる医療情報管理システム、医療情報管理方法、および、記録媒体の実施の形態を図面に基づいて詳細に説明する。この実施の形態においては、本発明は眼科の病院における医療情報管理に適用した例について説明する。なお、この実施の形態によりこの発明が限定されるものではない。

【0048】(全体の概要)以下、本システムの全体の概要について説明し、その後、本システムの構成および処理等について詳細に説明する。図1は本システムの全体構成を示すブロック図である。この図1に示すように、本システムは、医療情報管理システムとしてのサーバ装置100と、複数のクライアント装置200とをLAN(Local Area Network)300を介して通信可能に接続して構成されている。

【0049】このうち、サーバ装置100は、病院内の任意の場所に設置されており、また、複数のクライアント装置200は、同一病院内の受付、診療室、検査室、手術室、および、会計に設置されている。そして、各クライアント装置200から入力された各種の情報は、サーバ装置100において集中的に管理され、また、これらの情報は各クライアント装置200によって呼び出されて出力等される。ただし、これらの設置位置や設置数は任意である。

【0050】(システム構成—サーバ装置100)次に、このシステムの各構成要素について説明する。まず、サーバ装置100の構成について説明する。図2は、サーバ装置100の構成を示すブロック図である。この図2においてサーバ装置100は、概略的に、患者

DB(DB=データベース)101、医師DB102、傷病オーダーDB103、処置オーダーDB104、処方オーダーDB105、問診DB106、診療メモDB107、受付DB108、診察DB109、検査DB110、手術DB111、会計DB112、病名DB113、処置DB114、材料DB115、薬剤DB116、薬剤作用DB117、薬剤適用DB118、セットDB119、自動提示DB120、高頻度DB121、入力順序DB122、キーワードDB123、処置整合性DB124、処方整合性DB125、診察履歴DB126、保険点数DB127、レセプト計算結果DB128、通信制御IF(IF=インターフェース)130、および、制御部140を備えて構成されており、これら各部は任意の通信路を介して通信可能に接続されている。さらに、このサーバ装置100は、ルータ等の図示しない通信装置および通信線路を介してLAN300に通信可能に接続されている。

【0051】これらサーバ装置100の各構成要素のうち、患者DB101は、患者を特定するための情報を格納する患者情報格納手段である。例えば、患者DB101には、各患者を一意に識別するためのカルテ番号、各患者の氏名、各患者の住所、各患者の生年月日、各患者の紹介者、各患者の年令、各患者の保険者番号、各患者の保険種別、医療費が公費で支払われる場合には公費種別、が相互に関連付けて格納されている。また、医師DB102は、医師を特定するための情報を格納する医師情報格納手段である。例えば、医師DB102には、各医師を一意に識別するための医師ID、各医師の氏名、が相互に関連付けて格納されている。

【0052】また、傷病オーダーDB103は、患者の傷病名を特定するための情報を格納する傷病オーダー格納手段である。例えば、傷病オーダーDB103には、各患者のカルテ番号、各患者の傷病名ID、が相互に関連付けて格納されている。また、処置オーダーDB104は、患者に対して行なった処置の内容を特定するための情報を格納する処置オーダー格納手段である。例えば、処置オーダーDB104には、各患者のカルテ番号、各患者に対して行なった処置の処置ID、が相互に関連付けて格納されている。また、処方オーダーDB105は、患者に対して行なった処方の内容を特定するための情報を格納する処方オーダー格納手段である。例えば、処方オーダーDB105には、各患者のカルテ番号、各患者に対して処方した薬剤の薬剤ID、が相互に関連付けて格納されている。

【0053】また、問診DB106は、患者を問診することによって得られた情報を格納する問診情報格納手段である。例えば、問診DB106には、各患者のカルテ番号、問診で得られた情報、が相互に関連付けて格納されている。また、診療メモDB107は、患者または症例に関する情報を格納する診療情報格納手段である。例

10

20

30

40

50

例えば、診療メモDB107には、各患者のカルテ番号、患者または症例に関する情報、が相互に関連付けて格納されている。

【0054】また、受付DB108は、患者の受付を行なった際の時間に関する情報を格納する受付格納手段である。例えば、受付DB108には、各患者のカルテ番号、各患者の受付日時、が相互に関連付けて格納されている。また、診察DB109は、患者の診察を行なった際の時間に関する情報を格納する診察格納手段である。例えば、診察DB109には、各患者のカルテ番号、診察を行なった医師の医師ID、各患者の診察開始日時、各患者の診察終了日時、が相互に関連付けて格納されている。また、検査DB110は、患者の検査を行なった際の時間に関する情報を格納する検査格納手段である。例えば、検査DB110には、各患者のカルテ番号、検査を行なった医師の医師ID、各患者の検査開始日時、各患者の検査終了日時、が相互に関連付けて格納されている。

【0055】また、手術DB111は、患者の手術を行なった際の時間に関する情報を格納する手術格納手段である。例えば、手術DB111には、各患者のカルテ番号、手術を行なった医師の医師ID、各患者の手術開始日時、各患者の手術終了日時、が相互に関連付けて格納されている。また、会計DB112は、患者の会計を行なった際の時間に関する情報を格納する会計格納手段である。例えば、会計DB112には、各患者のカルテ番号、各患者の会計終了日時、が相互に関連付けて格納されている。なお、これら受付DB108、診察DB109、検査DB110、手術DB111、および、会計DB112は、いずれも、患者が医療に関与した時間に関する情報を格納する時間格納手段を構成する。

【0056】また、病名DB113は、傷病名に関する情報を格納する傷病名格納手段である。ここで、傷病名は、医師が慣習的に使用したり研究等のデータとして活用するために使用する医学病名と、レセプトに記載するものとして標準化されている保険病名とに大別される。これを受けて、病名DB113には、例えば、各傷病名を一意に特定するための傷病名ID、各傷病名の保険病名、各傷病名の医学病名、これら保険病名と医学病名との相互関係を示す情報、が相互に関連付けて格納されている。ここで、相互関係を示す情報として、下位、同義、類似のいずれかの情報が格納される。

【0057】また、処置DB114は、医師が取り得る処置の内容に関する情報を格納する処置情報格納手段である。例えば、処置DB114には、各処置を一意に識別するための処置ID、各処置の処置名、が相互に関連付けて格納されている。また、材料DB115は、医師が各処置において使用する材料に関する情報を格納する材料情報格納手段である。例えば、材料DB115には、各材料を一意に識別するための材料ID、各材料の

材料名、が相互に関連付けて格納されている。

【0058】また、薬剤DB116は、薬剤に関する情報を格納する薬剤情報格納手段である。例えば、薬剤DB116には、各薬剤を一意に識別するための薬剤ID、各薬剤の薬剤名、が相互に関連付けて格納されている。また、薬剤作用DB117は、各薬剤の作用に関する情報を格納する薬剤作用情報格納手段である。例えば、薬剤作用DB117には、各薬剤の薬剤ID、各薬剤の作用、が相互に関連付けて格納されている。また、薬剤適用DB118は、各薬剤の適用に関する情報を格納する薬剤適用情報格納手段である。例えば、薬剤適用DB118には、各薬剤の薬剤ID、各薬剤の治療対象疾患名、が相互に関連付けて格納されている。

【0059】また、セットDB119は、各傷病名に該当する患者に行う処置を一または複数の単位で組み合わせた処置セットに関する情報と、各傷病名に該当する患者に行う処方を一または複数の単位で組み合わせた処方セットに関する情報と、を格納するセット格納手段である。例えば、セットDB119には、各処置セットを一意に識別するための処置セットID、各処置セットに含まれる一または複数の処置の処置ID、各処方セットを一意に識別するための処方セットID、各処方セットに含まれる一または複数の薬剤の薬剤ID、が相互に関連付けて格納されている。

【0060】また、自動提示DB120は、患者の各傷病名を特定するための情報と、各傷病名に該当する患者に行う処置の内容のうち、本システムのユーザである医師が最もよく使う処置の内容を特定するための情報と、各傷病名に該当する患者に行う処方の内容のうち、本システムのユーザである医師が最もよく使う処方の内容を特定するための情報とを、相互に関連付けて格納する処置処方格納手段である。例えば、自動提示DB120には、各傷病名の傷病名ID、各傷病名に該当する患者に行うべき処置セットであって最もよく行う処置セットの処置セットID、各傷病名に該当する患者に行うべき処方セットであって最もよく行う処方セットの処方セットID、が相互に関連付けて格納されている。

【0061】また、高頻度DB121は、本システムのユーザである医師がよく使う傷病名、および、よく使う処方を特定するための情報を格納する高頻度情報格納手段である。例えば、高頻度DB121には、よく使う傷病名の傷病名ID、よく処方する薬剤の薬剤ID、が格納されている。また、入力順序DB122は、医療に関する情報の本システムに対する入力順序を特定するための情報を格納する入力順序格納手段である。例えば、入力順序DB122には、問診を行うための複数の問診画面の画面データが、問診順序に沿って格納されている。また、キーワードDB123は、医療に関する情報を本システムに対して入力するためのキーワードを格納するキーワード格納手段である。例えば、キーワードDB1

23には、複数のキーワードが格納されている。

【0062】また、処置整合性DB124は、各傷病名を特定するための情報と、各傷病名に該当する患者に行うべき処置の内容との、相互の整合性に関する情報を格納する整合性格納手段である。例えば、処置整合性DB124には、各傷病名の傷病名ID、各傷病名にて特定される傷病に対して整合性があると認められる処置の処置ID、が格納されている。また、処方整合性DB125は、各傷病名を特定するための情報と、各傷病名に該当する患者に行うべき処方の内容との、相互の整合性に関する情報を格納する整合性格納手段である。例えば、処方整合性DB125には、各傷病名の傷病名ID、各傷病名にて特定される傷病に対して整合性があると認められる薬剤の薬剤ID、が格納されている。

【0063】また、診察履歴DB126は、過去の診察履歴に関する情報を格納する診察履歴格納手段である。例えば、診察履歴DB126には、過去に診察した各患者の傷病名の傷病名ID、各患者に行なった処置の処置ID、各患者に処方した薬剤の薬剤ID、が相互に関連付けて格納されている。

【0064】また、保険点数DB127は、各処置または各処方を行なった際の保険点数を格納する保険点数格納手段である。例えば、保険点数DB127には、各処置の処置IDまたは各薬剤の薬剤ID、各処置を行なった際または各薬剤を処方した際の保険点数、が相互に関連付けて格納されている。また、レセプト計算結果DB128は、レセプトの計算結果を格納するレセプト計算結果格納手段である。例えば、レセプト計算結果DB128には、各患者のカルテ番号、各患者の診療等を行なったことに関して所定の保険基金等に請求する請求点数、が相互に関連付けて格納されている。

【0065】また、図2において、通信制御IF130は、サーバ装置100とLAN300との間における通信制御を行う。そして、制御部140は、当該サーバ装置100の各部を制御する。ここで、サーバ装置100には、本システムのサーバ側アプリケーションがインストールされている。このアプリケーションは、図示しない記憶手段に格納されており、必要に応じて呼び出されてその全部または一部が図示しないRAM等に格納され、制御部140にて解釈および実行される。そして、このような動作により、サーバ装置100の制御部140は機能概念的に、データベースアクセス部141、受付処理部142、診察処理部143、検査処理部144、手術処理部145、会計処理部146、および、レセプト集計処理部147を備えて構成されている。

【0066】このうち、データベースアクセス部141は、各DBに対する情報の入出力を情報入出力処理手段である。また、受付処理部142は、患者の受付時の処理を行う受付処理手段である。また、診察処理部143は、患者の診察時の処理を行う処理手段である。特に、

診察処理部143は、サブモジュールとして、(1)入力順序DB122に格納された情報に基づいて、医療に関する情報を入力するための複数のフォーマットを、順次出力する入力順序処理手段としての入力順序処理部148、(2)キーワードDB123に格納されたキーワードを選択可能に出力し、選択されたキーワードを医療に関する情報の入力内容として受付けるキーワード処理手段としてのキーワード処理部149、(3)患者の傷病名が特定された際、セットDB119に格納された情報に基づいて、患者に対して行う処置の内容または処方の内容を出力する提示するセット処理手段としてのセット処理部150、(4)傷病名と、処置の内容または処方の内容とが特定された際、処置整合性または処方整合性DB125に格納された情報に基づいて、当該特定された傷病名と処置の内容または処方の内容との相互の整合性を判断する整合性処理手段としての整合性処理部151、(5)処置オーダーDB104または処方オーダーDB105に格納された情報と、保険点数DB127に格納された情報とに基づいて、保険点数を計算する保険点数計算処理手段としての保険点数計算処理部152と、(6)受付DB108、診察DB109、検査DB110、手術DB111、および、会計DB112に格納された情報に基づいて、患者が医療に関与した時間に関する分析を行う時間分析処理手段としての時間分析処理部153と、を備える。

【0067】また、検査処理部144は、患者の検査時の処理を行う検査処理手段である。また、手術処理部145は、患者の手術時の処理を行う手術処理手段である。また、会計処理部146は、患者の会計時の処理を行う会計処理手段である。そして、レセプト集計処理部147は、レセプト集計時の処理を行うレセプト集計処理手段である。なお、これら各部によって行なわれる処理の詳細については、後述する。

【0068】(システム構成—クライアント装置200)次に、クライアント装置200の構成について説明する。図3にはクライアント装置200のブロック図を示す。この図3に示すように、クライアント装置200は、概略的には、制御部210、ROM220、RAM230、HD240、入力装置250、出力装置260、入出力制御IF270、および、通信制御IF280を備えて構成されており、これら各部がバスを介してデータ通信可能に接続されている。

【0069】ここで、クライアント装置200には、本システムのクライアント側アプリケーションがインストールされている。このアプリケーション(各画面の画面データを含む)は、ROM220またはHD240に格納されており、必要に応じて呼び出されてその全部または一部がRAM230に格納され、制御部210にて解釈および実行される。そして、このような動作により、制御部210は機能概念的に、医療情報入出力処理手段

としての入出力処理部211を備える。

【0070】また、入力装置250としては、キーボード、マウス、および、マイク等を用いることができる。また、後述するモニタ260も、マウスと協働してポインティングデバイス機能を実現する。また、出力装置260としては、モニタ（家庭用テレビを含む）の他、スピーカを用いることができる（なお、以下、必要に応じて、出力装置260をモニタ260として記載する）。これら入力装置250および出力装置260に対する入出力は、入出力制御IF270を介して行なわれる。また、通信制御IF280は、クライアント装置200とLAN300との間における通信制御を行う。このように構成されたクライアント装置200は、LAN300に接続されており、所定の通信規約に従ってサーバ装置100にアクセスすることができる。

【0071】（処理の内容）次に、このように構成された本システムを用いて行なわれる各処理の詳細について説明する。なお、前提として、医師DB102、病名DB113、処置DB114、材料DB115、薬剤DB116、薬剤作用DB117、薬剤適用DB118、セットDB119、自動提示DB120、高頻度DB121、入力順序DB122、キーワードDB123、処置整合性DB124、処方整合性DB125、保険点数DB127には、それぞれ、当該各DBに格納すべき上述した情報が、本システムの導入者等によって既に格納されているものとする。

【0072】この処理の開始タイミングは、特記する場合を除いて任意であるが、本実施の形態においては、クライアント装置200のモニタ260に表示されるメイン画面を起点として行われるものとする。具体的には、ユーザが、クライアント装置200の入力装置250を介して所定の方法によって本システムの起動を指示すると、本システムが起動し、モニタ260にメイン画面が表示される。このメイン画面の表示例を図8に示す。

【0073】（受付処理—新規患者の受付）まず、受付において、新規患者の受付を行う際の処理について説明する。受付者が図8のメイン画面において所定の方法によって患者の新規登録を指示すると、入出力処理部211は、患者新規登録画面の画面データを取得して、モニタ260に表示させる。この患者新規登録画面の表示例を図9に示す。この患者新規登録画面には、患者DB101に格納されるべき各情報のうち、カルテ番号を除く各情報を入力するための入力欄MA-1と、登録を指示するOKボタンMA-2とが設けられている。

【0074】そして、受付者が、この入力欄MA-1に必要な情報を入力し、OKボタンMA-2を選択すると、入出力処理部211は、これら入力された情報と、患者新規登録を指示する旨の情報とを、サーバ装置100に送信する。また、この時、入出力処理部211は、受付日時を任意の方法で取得して、この受付日時の情報

を併せてサーバ装置100に送信する。

【0075】これら情報を受けたサーバ装置100の受付処理部142は、任意の方法（例えば、連番、ランダム生成等）でカルテ番号を発行すると共に、このカルテ番号と、クライアント装置200から送信された情報とを、データベースアクセス部141を介して（以下、各DBに対する情報の入出力において同じ）患者DB101に格納する。また、受付処理部142は、このカルテ番号と、クライアント装置200から送信された受付日時とを受付DB108に格納する。

【0076】また、図9の画面において保険タブMA-3、公費タブMA-4を選択することにより、それぞれ、図10に例示する保険情報登録画面、図11に例示する公費情報登録画面に移行することができる。そして、入力欄MB-1、MC-1に必要な情報を入力して、OKボタンMB-2、MC-2を選択すると、上記と同様に、入力された情報が患者DB101に格納される。これにて新規患者の受付処理が終了する。

【0077】（受付処理—再来患者の受付）次に、受付において、再来患者の受付を行う際の処理について説明する。受付者が所定の方法にて再来患者の受付を指示すると、入出力処理部211は、受付画面の画面データを取得して、この画面をモニタ260に表示させる。この画面の表示例を図12に示す。この受付画面には、カルテ番号を入力するための入力欄MD-1と、既登録患者の情報を呼び出すための呼び出しボタンMD-2と、既登録患者に関する情報を参照するための参照ボタンMD-3とが設けられている。

【0078】そして、受付者は、再来患者のカルテ番号が判る場合には、このカルテ番号を入力欄MD-1に入力して、呼び出しボタンMD-2を選択する。すると、入出力処理部211は、入力されたカルテ番号と、既登録患者の情報の呼び出しを指示する情報とを、サーバ装置100に送信する。これら情報を受けたサーバ装置100の受付処理部142は、送信されたカルテ番号に対応する患者の情報を患者DB101から呼び出し、この情報をクライアント装置200に送信する。この情報を受けた入出力処理部211は、患者の情報を受付画面に表示させる。

【0079】一方、受付者は、再来患者のカルテ番号が判らない場合には、参照ボタンMD-3を選択する。すると、入出力処理部211は、全ての既登録患者の情報の呼び出しを指示する情報をサーバ装置100に送信する。この情報を受けたサーバ装置100の受付処理部142は、全ての患者の情報を患者DB101から呼び出し、この情報をクライアント装置200に送信する。これを受けた入出力処理部211は、患者の情報を表示するための図示しない患者参照画面のデータを生成して、この画面をモニタ260に表示させる。そして、受付者が、この画面に表示されている患者のうち再来患者に該

当する患者を選択すると、入出力処理部211は、この選択された患者を特定するための情報と、既登録患者の情報の呼び出しを指示する情報とを、サーバ装置100に送信する。この結果、上記と同様に、特定された患者の情報が患者DB101から呼び出されてクライアント装置200に送信され、受付画面に表示される。

【0080】そして、受付者が、受付画面の診察を所定方法にて指示すると、入出力処理部211は、再来患者を特定するための情報と、再来患者の受付を指示する情報を、サーバ装置100に送信する。また、この時、入出力処理部211は、その時点の日時（受付日時）を任意の方法で取得して、この受付日時の情報を併せてサーバ装置100に送信する。これら情報を受けたサーバ装置100の受付処理部142は、送信された再来患者のカルテ番号に関連付けて、上記受付日時を受付DB108に格納する。これにて再来患者の受付処理が終了する。

【0081】（診察処理）次に、診察室において、患者の診察を行う際の処理について説明する。医師が、上述した図8に示すメイン画面において所定の方法によって受付状況の参照を指示すると、入出力処理部211は、受付状況の参照が指示された旨の情報をサーバ装置100に送信する。これを受けたサーバ装置100の診察処理部143は、サーバ装置100の受付DB108に受付日時が格納されている患者であって、診察DB109に診察開始日時が格納されていない患者を検索し、この患者に関する情報を患者DB101から呼び出して、クライアント装置200に送信する。これを受けた入出力処理部211は、受付状況画面の画面データを取得して、この画面をモニタ260に表示させる。この受付状況画面の表示例を図13に示す。この受付状況画面の表示領域ME-1には、受付を行っており、未だ診察が行われていない患者の情報が表示されている。

【0082】そして、医師が、受付状況画面に表示されている患者の中から、診察を行う患者を選択すると、入出力処理部211は、この患者を特定するための情報をサーバ装置100に送信する。これを受けたサーバ装置100の診察処理部143は、特定された患者のカルテ番号や氏名等を患者DB101から呼び出してクライアント装置200に送信する。この情報を受けた入出力処理部211は、この情報に基づいて、診察記録画面の画面データを生成して、この画面をモニタ260に表示させる。この画面の表示例を図14に示す。この画面には、タブMF-1～MF-4によって切り換えることのできる複数のサブ画面が表示されている。ここでは、サブ画面として、患者のカルテ番号や氏名等の基本情報を表示するための患者基本情報、問診を行うための問診画面、診療メモを記録するための診療メモ画面、および、オーダーを行うためのオーダー画面が設けられている。

【0083】なお、上記のように診察を行う患者が選択

された際、入出力処理部211は、その時点の日時（診療開始日時）を任意の方法で取得して、サーバ装置100に送信する。この情報を受けたサーバ装置100の診察処理部143は、送信された患者のカルテ番号に関連付けて、上記診療開始日時を診察DB109に格納する。

【0084】（診察処理－問診処理）次に、診察のうち、患者に対する問診を行う際の処理について説明する。診察記録画面の問診画面を医師が選択すると、複数の問診情報の入力用画面がモニタ260に順序表示される。この処理のフローチャートを図4に示す。具体的には、問診画面を医師が選択すると、入出力処理部211は、この選択が行なわれた旨の情報をサーバ装置100に送信する（ステップSA-1）。これを受けたサーバ装置100の入力順序処理部148は、入力順序DB122に格納された複数の問診情報の入力用画面の画面データのうち、最初に表示すべき画面の画面データをクライアント装置200に送信する（ステップSA-2、SA-3）。この結果、最初に表示すべき画面がモニタ260に表示される（ステップSA-4、SA-5）。この画面の表示例を図15に示す。この画面には、所定の問診事項について患者から得た情報を入力するための入力欄MG-1と、問診開始を指示するための指示ボタンMG-2とが表示されている。

【0085】そして、医師が、問診で得た情報を入力欄MG-1に入力し、指示ボタンボタンMG-2を選択すると、入出力処理部211は、この選択が行なわれた旨の情報を、サーバ装置100に送信する（ステップSA-6、SA-7）。これを受けたサーバ装置100の入力順序処理部148は、2番目に表示すべき問診情報の入力用画面の画面データを入力順序DB122から呼び出して、クライアント装置200に送信する。この結果、2番目に表示すべき問診情報の入力用画面がモニタ260に表示される。この画面の表示例を図16、17に示す。以降、表示すべき問診情報の入力用画面がなくなるまで同様な処理を繰り返し替えることにより（ステップSA-8、SA-9～AS-3）、所定順序で問診を行うことができる。

【0086】このように、問診すべき事項が自動的に表示されるので、問診を一層容易に行うことができると共に、問診すべき事項を忘れること等がないので、問診を一層正確に行うことができる。なお、このように各問診情報の入力用画面を自動表示する以外にも、例えば、ドロップダウンリストを表示して、任意の問診情報の入力用画面を任意のタイミングで表示できるようにしてもよい。このように各画面において入力された各情報は、各画面の切り替え時や、問診処理の終了時等の任意のタイミングでサーバ装置100に送信され、診断処理部が、患者のカルテ番号と共に、問診DB106に格納する。

【0087】（診察処理－診療メモ処理）次に、診察の

うち、診療メモを記録する際の処理について説明する。診察記録画面のサブ画面として診療メモ画面を選択すると、入出力処理部211は、診療メモ画面の画面データを取得して、この画面をモニタ260に表示させる。この画面の表示例を図18に示す。この画面には、診療メモを入力するための入力欄MH-1と、診療メモを記録の終了を指示するための指示ボタンMH-2とが表示されている。そして、医師が、任意の内容を入力欄に入力した指示ボタンMH-2を選択すると、入出力処理部211は、入力された内容をサーバ装置100に送信する。この情報を受けたサーバ装置100の診断処理部は、送信された内容を、患者のカルテ番号に関連付けて、診療メモDB107に格納する。

【0088】ここで、診療メモ画面への情報入力の際には、所定のキーワード集に掲載されたキーワードを用いることができる。例えば、診療メモ画面に設けたキーワード集ボタンMH-3を医師が選択すると、入出力処理部211は、この選択が行なわれた旨の情報をサーバ装置100に送信する。この情報を受けたサーバ装置100のキーワード処理部149は、キーワードDB123に格納された全てのキーワードを呼び出してクライアント装置200に送信する。これを受けたキーワード処理部149は、送信されたキーワードに基づいて、キーワード集画面の画面データを生成し、この画面をモニタ260に表示させる。この画面の表示例を図19に示す。

【0089】このキーワード集画面には、キーワードを選択するための複数のキーワードボタンMI-1が表示されており、医師がこのキーワードを選択すると、入出力処理部211は、このキーワードを図18の診療メモの入力欄MH-1に表示する。したがって、診療メモには、キーワード集に収められたキーワードを容易に入力することができるので、診療メモの検索時に検索効率を向上させることができる。なお、このキーワード集画面は、医師が任意のタイミングで呼び出して表示させることができ、キーワードDB123には任意のキーワードを登録することができる。

【0090】（診察処理—オーダー処理）次に、診察のうち、オーダーを行う際の処理について説明する。診察記録画面のサブ画面としてオーダー画面を選択すると、入出力処理部211は、オーダー画面の画面データを取得して、この画面をモニタ260に表示させる。この画面の表示例を図20に示す。このオーダー画面には、傷病名を表示する傷病名表示欄MJ-1、処置を表示する処置表示欄MJ-2、処方を表示する処方表示欄MJ-3が設けられている。

【0091】（診察処理—オーダー処理—傷病名のオーダー）まず、傷病名のオーダーを行うための処理について説明する。医師が、傷病名のオーダーを行うための所定の操作を行うと、入出力処理部211は、傷病名入力用画面の画面データを取得して、この画面をモニタ26

0に表示させる。この画面の表示例を図21に示す。この画面には、傷病名の表示領域MK-1が設けられている。この傷病名の表示領域MK-1には、タブMK-2～MK-5によって切り換えることのできる複数のサブ画面が表示されている。ここでは、サブ画面として、よく使う傷病名を表示するための高頻度傷病名画面、既往病名を表示するための既往病名画面、傷病名を一覧表示するための傷病名一覧画面、傷病名をツリー表示するためのツリー画面が設けられている。

【0092】このうち、高頻度傷病名画面が選択されると、図22の高頻度傷病名画面が図21の傷病名入力用画面の表示領域MK-1の一番手前に表示される。具体的には、高頻度傷病名画面が選択されると、入出力処理部211は、この選択が行なわれた旨の情報をサーバ装置100に送信する。これを受けたサーバ装置100の診察処理部143は、高頻度DB121に格納されている傷病名IDを呼び出し、この傷病名IDに基づいて病名DB113から医学病名を呼び出し、この医学病名をクライアント装置200に送信する。この情報を受けた入出力処理部211は、この情報に基づいて、高頻度傷病名画面の画面データを生成して、この画面を上記のように表示させる。

【0093】また、既往病名画面が選択されると、図23の既往病名画面が図21の傷病名入力用画面の表示領域MK-1の一番手前に表示される。具体的には、既往病名画面が選択されると、入出力処理部211は、この選択が行なわれた旨の情報をサーバ装置100に送信する。これを受けたサーバ装置100の診察処理部143は、診察履歴DB126に格納されている傷病名IDを呼び出し、この傷病名IDに基づいて病名DB113から医学病名を呼び出し、この医学病名をクライアント装置200に送信する。この情報を受けた入出力処理部211は、この情報に基づいて、既往病名画面の画面データを生成して、この画面を上記のように表示させる。

【0094】また、傷病名一覧画面が選択されると、図24の傷病名一覧画面が表示領域MK-1の一番手前に表示される。具体的には、傷病名一覧画面が選択されると、入出力処理部211は、この選択が行なわれた旨の情報をサーバ装置100に送信する。これを受けたサーバ装置100の診察処理部143は、病名DB113に格納されている全ての保険病名および医学病名を呼び出し、この医学病名を公知の整列アルゴリズムを適用して所定順序（例えば、50音順）に整列し、この医学病名をクライアント装置200に送信する。

【0095】この情報を受けた入出力処理部211は、この情報に基づいて、傷病名一覧画面の画面データを生成して、この画面を上記のように表示させる。この傷病名一覧画面には、検索したい既往病名のキーワードを入力するためのキーワード入力欄MO-1と、この検索を指示する検索ボタンMO-2とが設けられている。そし

て、医師は、キーワードをキーワード入力欄MO-1に入力して検索ボタンMO-2を選択すると、公知の検索アルゴリズムに従って検索が行なわれる。

【0096】また、ツリー画面が選択されると、図25のツリー画面が表示領域MK-1の一番手前に表示される。具体的には、ツリー画面が選択されると、入出力処理部211は、この選択が行なわれた旨の情報をサーバ装置100に送信する。これを受けたサーバ装置100の診察処理部143は、病名DB113に格納されている全ての保険病名および医学病名を呼び出し、この医学病名を概念の大小関係に従ってツリー構造に関連付けて、この医学病名をクライアント装置200に送信する。この情報を受けた入出力処理部211は、この情報に基づいて、ツリー画面の画面データを生成して、この画面を上記のように表示させる。このツリー画面にも、キーワードを入力するためのキーワード入力欄MP-1と、この検索を指示する検索ボタンMP-2とが設けられており、上述の傷病名一覧画面の場合と同様に傷病名の検索を行うことができる。

【0097】ここで、概念の大小関係としては、病名DB113に格納された保険病名と医学病名との相互関係を示す情報を用いる。そして、樹形図上において、下位として関連付けられている保険病名または医学病名については、上位の健病名または医学病名に対して1段下位に表示する。また、同義、類似の関係の場合には、それらを医師が認識可能な所定の形態で表示する。例えば、同義の関係を有する2つの保険病名または医学病名の間には、「同義」との表示を付する。

【0098】そして、医師が、これら高頻度傷病名画面、既往病名画面、傷病名一覧画面、または、ツリー画面において、入力したい傷病名に該当する保険病名または医学病名を所定方法で選択すると、入出力処理部211は、この選択された保険病名または医学病名を、図20のオーダー画面の傷病名表示欄MJ-1に表示する。これにて傷病名がオーダーされる。以降、同様に、傷病名の入力を行うことができる。

【0099】（診察処理—オーダー処理—傷病名の編集）次に、傷病名の編集処理について説明する。まず、高頻度傷病名の編集について説明する。上述した図21の傷病名入力用画面には、傷病名の編集領域MK-6が設けられている。この傷病名の編集領域MK-6には、高頻度傷病名設定ボタンMK-7が設けられている。そして、医師は、既往病名画面、傷病名一覧画面、または、ツリー画面に表示されている傷病名のうち、任意の傷病名を選択して高頻度傷病名設定ボタンMK-7を選択することにより、この選択した傷病名を高頻度傷病名画面に追加することができる。具体的には、高頻度傷病名設定ボタンMK-7が選択されると、入出力処理部211は、選択された傷病名を特定するための情報と、この選択が行なわれた旨の情報とを、サーバ装置100に

送信する。これを受けたサーバ装置100の診察処理部143は、選択した傷病名の傷病名IDを高頻度DB121に格納する。

【0100】また、図22の高頻度傷病名画面には削除ボタンML-1が設けられている。そして、医師は、当該高頻度傷病名画面に表示されている傷病名のうち、任意の傷病名を選択して削除ボタンML-1を選択することにより、この選択した傷病名を高頻度傷病名画面から削除することができる。具体的には、削除ボタンML-1が選択されると、入出力処理部211は、この選択が行なわれた旨の情報と、選択された傷病名を特定するための情報をサーバ装置100に送信する。これを受けたサーバ装置100の診察処理部143は、選択された傷病名の傷病名IDを高頻度DB121から削除する。

【0101】次に、医師のオリジナルの傷病名（医学病名）の登録について説明する。上述した図21の傷病名入力用画面の傷病名の設定領域MK-6には、オリジナル傷病名登録ボタンMK-8が設けられている。そして、医師がオリジナル傷病名登録ボタンMK-8を選択すると、入出力処理部211は、オリジナル傷病名の登録用画面の画面データを取得して、この画面をモニタ260に表示させる。この画面の表示例を図26に示す。この画面には、傷病名の表示領域MQ-1と、オリジナル傷病名の登録領域MQ-2とが設けられている。このうち、表示領域MQ-1には、上述した図25の画面と同様のツリー画面が表示されており、このツリー画面において医師が任意の傷病名（保険病名）を選択すると、入出力処理部211は、この選択された傷病名を、オリジナル傷病名に関連する傷病名（関連傷病名）であるとして、登録領域MQ-2の関連傷病名入力欄MQ-3に表示させる。

【0102】また、この登録領域MQ-2には、オリジナル傷病名を入力するための入力欄MQ-4と、当該オリジナル傷病名と上記関連傷病名との相互関係が、下位、同義、類似のいずれであるのかを指定するためのラジオボタンMQ-5と、オリジナル傷病名の登録を指示するOKボタンMQ-6とが設けられている。そして、医師が、入力欄MQ-4に任意のオリジナル傷病名を入力し、上記相互関係をラジオボタンMQ-5を用いて指定して、OKボタンMQ-6を選択すると、入出力処理部211は、この選択が行なわれた旨の情報と、入力されたオリジナル傷病名、上記の関連傷病名、および、指定された相互関係を特定するための情報をサーバ装置100に送信する。これを受けたサーバ装置100の診察処理部143は、入力されたオリジナル傷病名を、関連傷病名と上記相互関係とに関連付けて、病名DB113に格納する。

【0103】（診察処理—オーダー処理—処置のオーダー）次に、処置のオーダーを行うための処理について説明する。上述した図20のオーダー画面において、医師

が、処置のオーダーを行うための所定の操作を行うと、入出力処理部211は、処置入力用画面の画面データを取得して、この画面をモニタ260に表示させる。この画面を図27に示す。この画面には、処置の表示領域MR-1が設けられている。この処置の表示領域MR-1には、タブによって切り換えることのできる複数のサブ画面が表示されている。ここでは、サブ画面として、処置をセットで入力するためのセット画面、処置を一覧表示するための処置一覧画面が設けられている。

【0104】このうち、セット画面が選択されると、入出力処理部211は、この選択が行なわれた旨の情報をサーバ装置100に送信する。これを受けたサーバ装置100の診察処理部143は、一または複数の処置を組み合わせて構成される処置セットのセット名と、各処置セットに含まれている処置の処置名とをセットDB119から取得して、これらの情報をクライアント装置200に送信する。これらの情報を受けた入出力処理部211は、これらの情報を含んだセット画面の画面データを生成して、図28のセット画面を図27の画面の表示領域MR-1の一番手前に表示させる。

【0105】そして、医師が、セット画面のセット名表示領域MS-1に表示されている複数のセット名のうち、任意のセット名を選択すると、入出力処理部211は、この選択が行なわれた旨の情報と、選択されたセット名を特定するための情報とをサーバ装置100に送信する。これを受けたサーバ装置100の診察処理部143は、送信されたセット名にて特定される処置セットに含まれる全ての処置の処置IDをセットDB119から呼び出し、この処置IDに対応する処置の処置名を処置DB114から呼び出して、この処置名をクライアント装置200に送信する。これを受けた入出力処理部211は、送信された処置名を、セット画面の処置名表示領域MS-2に表示させる。そして、この内容を確認した後、医師が、所定の方法にてセット名を確定すると、入出力処理部211は、このセット名に対応する処置名を、図20のオーダー画面の処置表示欄MJ-2に表示する。これにて処置名がオーダーされる。

【0106】また、図27の処置入力用画面において処置一覧画面が選択されると、入出力処理部211は、この選択が行なわれた旨の情報をサーバ装置100に送信する。これを受けたサーバ装置100の診察処理部143は、処置DB114に格納されている全ての処置の処置名を呼び出し、この処置名を公知の整列アルゴリズムを適用して所定順序（例えば、50音順）に整列し、この処置名をクライアント装置200に送信する。

【0107】これを受けた入出力処理部211は、整列された処置名を含んだ処置一覧画面の画面データを生成して、図29の処置一覧画面を図27の画面の表示領域MR-1の一番手前に表示させる。この画面において、処置の分類表示領域MS-1に各処置が所定の分類

基準に従ってグルーピング表示されており、この分類表示領域MS-1において選択されたグループに属する処置の処置名が処置名表示領域MS-2に表示されている。そして、医師が、処置名表示領域MS-2において、入力したい処置に該当する処置名を所定方法で選択すると、入出力処理部211は、この選択された処置名を図20のオーダー画面の処置表示欄MJ-2に表示する。これにて処置名がオーダーされる。

【0108】（診察処理—オーダー処理—処方オーダー）次に、処方のオーダーを行うための処理について説明する。上述した図20のオーダー画面において、医師が、処方のオーダーを行うための所定の操作を行うと、入出力処理部211は、処方入力用画面の画面データを取得して、この画面をモニタ260に表示させる。この画面の表示例を図30に示す。この画面には、処方の表示領域MT-1が設けられている。この処方の表示領域MT-1には、タブによって切り換えることのできる複数のサブ画面が表示されている。ここでは、サブ画面として、よく使う薬剤名を表示するための高頻度薬剤名画面、過去の処方を表示するための過去処方画面、薬剤名を薬剤の作用別に表示するための作用別画面、薬剤名を薬剤の適用別に表示するための適用別画面、薬剤名を一覧表示するための薬剤名一覧画面が設けられている。

【0109】このうち、高頻度薬剤画面が選択されると、入出力処理部211は、この選択が行なわれた旨の情報をサーバ装置100に送信する。これを受けたサーバ装置100の診察処理部143は、高頻度DB121に格納されている薬剤IDを呼び出し、この薬剤IDに基づいて薬剤DB116から薬剤名を呼び出し、この薬剤名をクライアント装置200に送信する。この情報を受けた入出力処理部211は、送信された薬剤名を含んだ高頻度薬剤画面の画面データを生成して、図31の高頻度薬剤画面を図30の画面の表示領域MT-1の一番手前に表示させる。

【0110】また、過去処方面面が選択されると、入出力処理部211は、この選択が行なわれた旨の情報をサーバ装置100に送信する。これを受けたサーバ装置100の診察処理部143は、診察履歴DB126に格納されている薬剤IDを呼び出し、この薬剤IDに基づいて薬剤DB116から薬剤名を呼び出し、この薬剤名をクライアント装置200に送信する。この情報を受けた入出力処理部211は、送信された薬剤名を含んだ過去処方面面の画面データを生成して、図32の過去処方面面を図30の画面の表示領域MT-1の一番手前に表示させる。

【0111】また、作用別画面が選択されると、入出力処理部211は、この選択が行なわれた旨の情報をサーバ装置100に送信する。これを受けたサーバ装置100の診察処理部143は、薬剤作用DB117に格納されている薬剤IDと、各薬剤の作用とを呼び出し、この

薬剤IDに基づいて薬剤DB116から薬剤名を呼び出すと共に、この薬剤名を作用に応じて整列する。そして、この整列された薬剤名をクライアント装置200に送信する。この情報を受けた入出力処理部211は、送信された薬剤名を含んだ作用別画面の画面データを生成して、図33の作用別画面を図30の画面の表示領域MT-1の一番手前に表示させる。

【0112】また、適用別画面が選択されると、入出力処理部211は、この選択が行なわれた旨の情報をサーバ装置100に送信する。これを受けたサーバ装置100の診察処理部143は、薬剤適用DB118に格納されている薬剤IDと、各薬剤の治療対象疾患名とを呼び出し、この薬剤IDに基づいて薬剤DB116から薬剤名を呼び出すと共に、この薬剤名を治療対象疾患名に応じて整列する。そして、この整列された薬剤名をクライアント装置200に送信する。この情報を受けた入出力処理部211は、送信された薬剤名を含んだ適用別画面の画面データを生成して、図34の適用別画面を図30の画面の表示領域MT-1の一番手前に表示させる。

【0113】また、薬剤名一覧画面が選択されると、入出力処理部211は、この選択が行なわれた旨の情報をサーバ装置100に送信する。これを受けたサーバ装置100の診察処理部143は、薬剤DB116に格納されている全ての薬剤名を呼び出し、この薬剤名を公知の整列アルゴリズムを適用して所定順序（例えば、50音順）に整列し、この薬剤名をクライアント装置200に送信する。この情報を受けた入出力処理部211は、送信された薬剤名を含んだ薬剤名一覧画面の画面データを生成して、図35の薬剤名一覧画面を図30の画面の表示領域MT-1の一番手前に表示させる。この薬剤名一覧画面には、キーワードを入力するためのキーワード入力欄MU-1と、この検索を指示する検索ボタンMU-2とが設けられており、上述の傷病名一覧画面の場合と同様に薬剤名の検索を行うことができる。

【0114】そして、医師が、これら高頻度薬剤名画面、過去処方画面、作用別画面、適用別画面、または、薬剤名一覧画面において、処方したい薬剤に該当する薬剤名を所定方法で選択すると、入出力処理部211は、この選択された薬剤名を、オーダー画面の薬剤名表示欄に表示する。これにて処方のオーダーが行なわれる。以降、同様に、医師は、処方のオーダーを行うことができる。

【0115】（診察処理—オーダー処理—処置・処方のオーダーの他の形態）この他、処置オーダーと処方オーダーは、下記のような方法によっても行うことができる。まず、所定の処置と所定の処方とを自動的に一括オーダーすることができる。具体的には、上述した図20のオーダー画面に設けられている自動提示ボタンMJ-4を医師が選択すると、入出力処理部211は、この選択が行なわれた旨の情報をサーバ装置100に送信す

る。これを受けたサーバ装置100のセット処理部150は、医師によって任意の方法で自動提示DB120に格納されている処置セットの処置セットIDを呼び出し、この処置セットIDに対応する処置セットに含まれる全ての処置の処置IDをセットDB119から呼び出し、この処置IDに対応する処置の処置名を処置DB114から呼び出して、この処置名をクライアント装置200に送信する。

【0116】また、セット処理部150は、同時に、医師によって任意の方法で自動提示DB120に格納されている処方セットの処方セットIDを呼び出し、この処方セットIDに対応する処方セットに含まれる全ての薬剤の薬剤IDをセットDB119から呼び出し、この薬剤IDに対応する薬剤の薬剤名を薬剤DB116から呼び出して、この薬剤名をクライアント装置200に送信する。この情報を受けた入出力処理部211は、送信された処置名をオーダー画面の処置表示欄MJ-2に表示させると共に、送信された処方名をオーダー画面の処方表示欄MJ-3に表示させる。これにて処置および処方のオーダーが行なわれる。

【0117】あるいは、前回行なった処置および処方を自動的に一括オーダーすることができる。具体的には、上述した図20のオーダー画面に設けられている前回ボタンMJ-5を医師が選択すると、入出力処理部211は、この選択が行なわれた旨の情報をサーバ装置100に送信する。これを受けたサーバ装置100の診察処理部143は、現在診察を行なっている患者に対して、前回オーダーした処置の処置IDを診察履歴DB126から呼び出し、この処置IDに対応する処置の処置名を処置DB114から呼び出して、この処置名をクライアント装置200に送信する。

【0118】また、診察処理部143は、同時に、前回オーダーした処方の薬剤IDを診察履歴DB126から呼び出し、この薬剤IDに対応する薬剤の薬剤名を薬剤DB116から呼び出して、この薬剤名をクライアント装置200に送信する。この情報を受けた入出力処理部211は、送信された処置名をオーダー画面の処置表示欄MJ-2に表示させると共に、送信された処方名をオーダー画面の処方表示欄MJ-3に表示させる。これにて処置および処方のオーダーが行なわれる。

【0119】（診察処理—オーダー処理—整合性処理）次に、整合性処理について説明する。上述した図20のオーダー画面に設けられている整合性ボタンMJ-6を医師が選択すると、その時点においてオーダー画面の傷病名表示欄MJ-1に入力されている傷病名に対して、処置表示欄MJ-2に入力されている全ての処置と、処方表示欄MJ-3に入力されている全ての薬剤との整合性が判断される。この処理のフローチャートを図5に示す。

【0120】具体的には、整合性ボタンMJ-6を医師

が選択すると、入出力処理部211は、この選択が行なわれた旨の情報と、上記入力されている傷病名、処置、および、処方を選定するための情報をサーバ装置100に送信する(ステップSB-1)。これを受けたサーバ装置100の整合性処理部151は、処置整合性DB124から、傷病名表示欄MJ-1に入力されている傷病名に対して整合性があると認められる処置の処置IDを呼び出し、この処置IDに対応する処置の処置名を処置DB114から呼び出して(ステップSB-2、SB-3)、この処置名と、処置表示欄MJ-2に入力されている全ての処置との一致・不一致を判断する(ステップSB-4)。そして、処置表示欄MJ-2に処置の中に、一致しない処置がある場合には、この処置の処置名をクライアント装置200に送信する(ステップSB-5)。

【0121】また、同時に、整合性処理部151は、処方整合性DB125から、傷病名表示欄MJ-1に入力されている傷病名に対して整合性があると認められる処方の薬剤IDを呼び出し、この薬剤IDに対応する薬剤の薬剤名を薬剤DB116から呼び出して(ステップSB-2、SB-3)、この薬剤名と、処方表示欄MJ-3に入力されている全ての薬剤名との一致・不一致を判断する(ステップSB-4)。そして、処方表示欄MJ-3の薬剤名の中に、一致しない薬剤名がある場合には、この薬剤名をクライアント装置200に送信する(ステップSB-5)。これらの情報を受けた入出力処理部211は、送信された処置名および薬剤名を、所定方法(例えば、赤色表示)にて他の処置名および薬剤名から識別可能に表示する(ステップSB-6、SB-7)。

【0122】これによって医師は、不整合の可能性がある処置や薬剤名を認識することができ、必要に応じて、これらの処置や薬剤名をオーダー画面から削除することができる。このため、オーダー画面には、不整合削除ボタンMJ-7が設けられており、医師がこの不整合削除ボタンMJ-7を選択すると、入出力処理部211は、上記不整合の可能性がある処置および薬剤名を、オーダー画面から一括して削除する。

【0123】(診察処理—オーダー処理—保険点数処理)次に、保険点数処理について説明する。上記のように、オーダー画面に、処置または処方を入力する毎に、それぞれの保険点数と、その合計の保険点数とが計算され、この計算結果がオーダー画面に表示される。この処理のフローチャートを図6に示す。具体的には、オーダー画面に処置または処方が入力される毎に、入出力処理部211は、これら処置または処方を選定するための情報をサーバ装置100に送信する(ステップSC-1、SC-2)。これを受けたサーバ装置100の保険点数計算処理部152は、保険点数DB127を参照して、オーダー画面に入力された処置または処方の保険点数を

呼び出し(ステップSC-3、SC-4)、これら各保険点数の合計を求め、これら各保険点数およびその合計をクライアント装置200に送信する(ステップSC-5)。これを受けたクライアント装置200の入出力処理部211は、これら各保険点数およびその合計を、図20のオーダー画面の点数表示領域MJ-8に表示する(ステップSC-6、SC-7)。この処理によれば、医師は、オーダーを行ないながら保険点数を確認することができる。

【0124】(診察処理—オーダー処理—データの格納)上記のような各処理を経てオーダーを行なった後、医師が所定の方法にてデータの保存を指定すると、入出力処理部211は、オーダーされた傷病名、処置名、および、薬剤名を選定するための情報を、問診で得られた情報、診療メモに入力された患者または症例に関する情報、および、公知の方法で取得したその時点の日時(診察終了日時)を、サーバ装置100に送信する。

【0125】これを受けたサーバ装置100の診断処理部は、オーダーされた傷病名の傷病名ID、処置の処置ID、薬剤の薬剤IDを、それぞれ傷病オーダーDB103、処置オーダーDB104、処方オーダーDB105に格納する。また、問診で得られた情報を問診DB106に格納し、診療メモに入力された患者または症例に関する情報を診療メモDB107に格納する。また、同時に、その時点の日時(診察終了日時)を診察DB109に格納する。これにてオーダー処理が終了する。

【0126】(書類の作成処理—診断書作成処理)その後、医師は、診断書を容易に作成することができる。具体的には、上述した図20のオーダー画面において、医師が、診断書を作成する患者のカルテ番号を選定し、所定方法にて診断書作成を指示すると、入出力処理部211は、診断書作成画面の画面データを取得して、この画面をモニタ260に表示させる。この画面の表示例を図36に示す。この画面には、傷病名の表示領域MV-1、発行日の入力欄MV-2、本文の入力欄MV-3、操作内容を選択するためのラジオボタンMV-4、操作内容を確認して指示するためのOKボタンMV-5が設けられている。

【0127】ここで、傷病名の表示領域MV-1には、医師によって特定された患者の傷病名が、傷病オーダーDB103から呼び出されて表示される。そして、医師は、このように表示された傷病名のうち、任意の傷病名を選択することによって、診断書に記入する傷病名を選定することができる。その後、医師が、発行日および本文を入力欄MV-2、MV-3に入力し、操作内容をラジオボタンMV-4にて選択した後、OKボタンMV-5を選択すると、上記選択された操作内容に従った操作が行なわれる。

【0128】この操作内容としては、診断書の印刷を選択することができ、この操作が選択された際には、入出

10

20

30

40

50

力処理部211は、傷病名の表示領域MV-1において特定された傷病名と、入力欄MV-2、MV-3に入力された発行日および本文を含んだ診断書を、所定のフォームにて図示しない印刷装置に出力して印刷させる。

【0129】また、操作内容としては、所定のソフトウェアでの確認または変更を選択することができる。ここで、所定のソフトウェアは任意であるが、例えば、文章作成用の汎用アプリケーション（Microsoft社製、Word等）や、表計算用の汎用アプリケーション（Microsoft社製、Excel等）を挙げることができる。このようなソフトウェアは、クライアント装置200のHD240に格納しておいてもよく、あるいは、サーバ装置100に格納しておき必要に応じてクライアント装置200から呼び出してもよい。この操作内容が選択された場合、入出力処理部211は、当該ソフトウェアを起動すると共に、このソフトウェアに応じた所定の診断書のフォーマットを開く。

【0130】また、上記入力された傷病名、発行日、および、本文を、上記ソフトウェアに応じた形式（例えば、ExcelにおけるCSV形式）に変換し、この変換後のデータを当該ソフトウェアにインポートして、上記フォーマットに組み込む。そして、医師は、このソフトウェアによって提供される各種機能を用いて、診断書を確認または変更等することができる。その他、医師は、操作内容としてプレビューを選択することにより、診断書の印刷イメージを表示して確認することができる。

【0131】（書類の作成処理—紹介状の返事の作成処理）また、医師は、紹介状の返事を容易に作成することができる。具体的には、医師が、上述した図20のオーダー画面において、紹介状の返事を作成する患者のカルテ番号を特定し、所定方法にて紹介状の返事の作成を指示すると、入出力処理部211は、紹介状の返事の作成画面の画面データを取得して、この画面をモニタ260に表示させる。この画面の表示例を図37に示す。この画面は、傷病名の表示領域MW-1、処方名の表示領域MW-2、検査結果の入力欄MW-3、手術予定の入力欄MW-4、操作内容を選択するためのラジオボタンMW-5、操作内容を確定して指示するためのOKボタンMW-6を含んで構成されている。

【0132】ここで、傷病名の表示領域MW-1には、医師によって特定された患者の傷病名が、傷病オーダーDB103から呼び出されて表示されている。また、処方名の表示領域MW-2には、当該患者に処方した薬剤の薬剤名が処方オーダーDB105から呼び出されて表示されている。そして、医師は、このように表示された傷病名や薬剤名のうち、任意の傷病名や薬剤名を選択することによって、診断書に記入する傷病名や薬剤名を特定することができる。

【0133】その後、医師が、検査結果および手術予定を入力欄MW-3、MW-4に入力し、操作内容をラジ

オボタンMW-5にて選択した後、OKボタンMW-6を選択すると、上記選択された操作内容に従った操作が行なわれる。そして、選択した操作内容に応じて、紹介状の返事が印刷され、紹介状の返事が所定のソフトウェアで編集または変更可能になり、あるいは、紹介状の返事の印刷イメージをプレビュー表示することができる。これら各操作内容については、診断書作成処理と同様であるため、その説明を省略する。

【0134】（検査時の処理）その後、検査室において患者の検査を行う際、医師がクライアント装置200を介して所定方法にて検査対象になる患者のカルテ番号を特定し、検査開始を指示すると、入出力処理部211は、検査開始が指示された旨の情報と、特定されたカルテ番号を示す情報と、公知の方法で取得したその時点の日時（検査開始日時）とを、サーバ装置100に送信する。これを受けたサーバ装置100の検査処理部144は、検査開始日時を、カルテ番号に関連付けて検査DB110に格納する。

【0135】また、検査終了後、医師が、所定方法にて検査終了を指示すると、入出力処理部211は、公知の方法で取得したその時点の日時（検査終了日時）を、サーバ装置100に送信する。これを受けたサーバ装置100の検査処理部144は、検査終了日時を、カルテ番号に関連付けて検査DB110に格納する。これにて検査時の処理が終了する。

【0136】（手術時の処理）その後、手術室において患者の手術を行う際、医師がクライアント装置200を介して所定方法にて手術対象になる患者のカルテ番号を特定し、手術開始を指示すると、入出力処理部211は、手術開始が指示された旨の情報と、特定されたカルテ番号を示す情報と、公知の方法で取得したその時点の日時（手術開始日時）とを、サーバ装置100に送信する。これを受けたサーバ装置100の手術処理部145は、手術開始日時を、カルテ番号に関連付けて手術DB111に格納する。

【0137】また、手術終了後、医師が、所定方法にて手術終了を指示すると、入出力処理部211は、公知の方法で取得したその時点の日時（手術終了日時）を、サーバ装置100に送信する。これを受けたサーバ装置100の手術処理部145は、手術終了日時を、カルテ番号に関連付けて手術DB111に格納する。これにて手術時の処理が終了する。

【0138】（会計処理）次に、会計において、患者の会計を行う際の処理について説明する。会計者がクライアント装置200を介して会計を行う患者のカルテ番号を所定方法にて特定し、所定の方法によって会計を指示すると、入出力処理部211は、このカルテ番号を特定するための情報をサーバ装置100に送信する。これを受けたサーバ装置100の診断処理部は、患者DB101から、当該患者の保険種別や公費種別を呼び出す。そ

して、これら保険種別および公費種別と、保険点数処理と同様に計算した保険点数とに基づいて会計金額を計算し、この会計金額をクライアント装置200に送信する。

【0139】これを受けたクライアント装置200の会計処理部146は、送信された会計金額を含んだ会計画面の画面データを生成して、この画面をモニタ260に表示させる。この画面の表示例を図38に示す。そして、会計者がこの画面を参照して会計金額を患者から徴収した後、この画面に設けられている会計完了ボタンM
X-1を選択すると、入出力処理部211は、公知の方法で取得したその時点の日時（会計終了日時）をサーバ装置100に送信する。これを受けたサーバ装置100の会計処理部146は、会計終了日時を会計DB112に格納する。これにて会計処理が終了する。

【0140】（時点管理処理）次に、時点管理処理について説明する。医師や病院経営者等は、任意のタイミングで、クライアント装置200を介した任意の方法によって時点管理処理を指示することができる。この指示が行なわれると、クライアント装置200の入出力処理部211は、この指示が行なわれた旨の情報をサーバ装置100に送信する。

【0141】これを受けたサーバ装置100の時間分析処理部153は、受付DB108から受付日時、診察DB109から診察開始日時と診察終了日時、検査DB110から検査開始日時と検査終了日時、手術DB111から手術開始日時と手術終了日時、会計DB112から会計終了日時をそれぞれ患者毎または医師毎に呼び出し、これらの情報に基づいて所定の統計処理を行ない、時点管理に関する統計処理結果を取得して、この統計処理結果をクライアント装置200に送信する。これを受けたクライアント装置200の入出力処理部211は、上記統計処理結果を所定の出力形態、例えば、モニタ260に表示する。これにて時点管理処理が終了する。

【0142】上記の統計処理の具体的な内容は任意であるが、例えば、医師別、患者別、傷病名別、時間帯別、月別等の、患者滞在時間（受付日時から会計終了日時までの経過時間として算定される）、診察所要時間（診察開始日時から診察終了日時までの経過時間として算定される）、検査所要時間（検査開始日時から検査終了日時までの経過時間として算定される）、あるいは、手術所要時間（手術開始日時から手術終了日時までの経過時間として算定される）を算定することができる。また、統計処理結果の出力形態は任意であるが、例えば、上記各時間を、曲線グラフ、棒グラフ、円グラフ等にて出力することができる。

【0143】（レセプト集計処理）次に、レセプトの集計処理について説明する。集計担当者は、所定のタイミング（例えば、各月の締め日）で、レセプト集計を行い、レセプトを印刷等することができる。具体的には、

集計担当者が、クライアント装置200を介して任意の方法でレセプト集計を指示すると、入出力処理部211は、この指示が行なわれた旨の情報をサーバ装置100に送信する。

【0144】これを受けたサーバ装置100のレセプト集計処理部147は、各患者の氏名、住所、保険種別、公費種別等を患者DB101から呼び出す。また、各患者に対して所定集計期間内にオーダーした傷病名の傷病ID、処置の処理ID、および、薬剤の薬剤IDを、それぞれ傷病オーダーDB103、処置オーダーDB104、および、処方オーダーDB105から呼び出す。そして、これら各IDに基づいて、病名DB113、処置DB114、あるいは、薬剤DB116を参照して、傷病名、処置名、および、薬剤名を呼び出す。なお、この時、傷病名が医学病名で入力されている場合には、医学病名から保険病名を導くことや、保険病名から医学病名を導くこと等を容易であるので、医学病名からレセプト集計時に必要になる保険病名を容易に特定することができる。

【0145】そして、これらの情報と、保険点数DB127に格納されている情報とに基づいて、保険点数と、所定の保険基金等への請求点数、および、患者の一部負担金額等を計算する。この計算自体の具体的な内容については、公知のレセコンと同様に行うことができるので、その内容を省略する。そして、このように計算した情報をクライアント装置200に送信する。また、レセプト集計処理部147は、計算された集計結果をレセプト計算結果DB128に格納する。一方、計算された情報を受けたクライアント装置200の入出力処理部211は、この情報を所定のレセプトのフォーマットに組み込み、このレセプトを図示しない印刷装置によって印刷させる。これにてレセプトの集計処理が終了する。

【0146】（レセプト集計処理—ネットワークベースでの処理）なお、このレセプトの集計処理は、一般に複雑であるためにシステムコストを増大させる原因になり易く、その一方で、頻繁に行なわれる保険料等に関する法律改正や薬価変更に対応するためのシステム変更が大変である。したがって、この集計処理を、病院外で集中して行うことが好ましい。以下、このように集計処理を病院外で行うためのシステム構成とその処理について説明する。

【0147】図7は、システムの全体構成を示すブロック図である。この場合、サーバ装置100と、任意の場所に設けたレセプト処理サーバ装置400とを、LAN300およびインターネット500を介して通信可能に接続する。そして、レセプト処理サーバ装置400には、サーバ装置100から送信された情報に基づいて、レセプト出力に必要な数値の集計を行うレセプト集計処理手段としての図示しないレセプト集計処理部を設ける。一方、サーバ装置100には、レセプト処理サー

バ装置400との間においてレセプト計算を行うためのデータの授受を行うレセプト計算指示処理部を設ける。

【0148】そして、集計担当者が、クライアント装置200においてレセプト集計を指示すると、レセプト集計処理が開始される。この処理において、サーバ装置100のレセプト計算指示処理部は、各患者の保険種別、公費種別等を患者DB101から呼び出す。また、各患者に対して所定集計期間内にオーダーした傷病名の傷病ID、処置の処理ID、および、薬剤の薬剤IDを、それぞれ傷病オーダーDB103、処置オーダーDB104、および、処方オーダーDB105から呼び出す。そして、そして、これら各IDに基づいて、病名DB113、処置DB114、あるいは、薬剤DB116を参照して、傷病名、処置名、および、薬剤名を呼び出す。

【0149】そして、これら呼び出した情報を、ダイヤルアップ接続等により、所定の通信規約（例えば、TCP/IPインターネットプロトコル）に従ってレセプト処理サーバ装置400に送信する。なお、この際、患者に関する情報としては、患者のセキュリティ保持のため、患者の氏名や住所等は送信することなく、患者がシステム外部では容易に特定できないような情報を送信することが好ましい。ここでは、患者IDを送信する。

【0150】一方、レセプト処理サーバ装置400は、サーバ装置100からの送信の有無を監視しており、送信があった場合には、当該送信された情報に基づいて、公知のレセコンと同様の処理に従って、レセプトに必要な情報を算定する。そして、この情報を、サーバ装置100に返信する。なお、この返信先のサーバ装置100の特定は、通信確立時に取得したIPアドレスを用いて行ってもよく、あるいは、サーバ装置100から、レセプト処理サービスを受けるための会員としての会員番号等の提示を受け、この会員番号に基づいて行うこともできる。

【0151】上記情報を返信されたサーバ装置100は、この情報に含まれる患者IDに基づいて、患者DB101から患者の氏名や住所等を呼び出し、患者IDを患者の氏名や住所等に置換する。そして、この置換後の情報を所定のレセプトのフォーマットに組み込み、このレセプトを印刷する。また、この集計結果を、レセプト計算結果DB128に格納する。これにてネットワークベースでのレセプト集計処理が終了する。

【0152】なお、上記の処理においては、集計結果の情報をサーバ装置100に送信し、このサーバ装置100においてレセプトの印刷等を行なっているが、レセプト処理サーバ装置400の方でレセプトの印刷等を行い、保険基金等に直接提出するようにしてもよい。この場合には、サーバ装置100からレセプト処理サーバ装置400に対して、患者の氏名等を送信する必要が生じるため、この氏名等を暗号化等して送信することが好ましい。

【0153】（異なる実施の形態）さて、これまで本発明の実施の形態について説明したが、本発明は、上述した実施の形態以外にも、上記特許請求の範囲に記載した技術的思想の範囲内において種々の異なる実施の形態にて実施されてよいものである。

【0154】例えば、上記各画面に表示される情報の全てまたは任意の一部を、所定のパスワード等が入力された場合にのみ表示するようにして、患者のプライバシー保護の確保等をしてよい。

【0155】あるいは、将来的に医療費用が定額制になった場合には、この定額制に適したシステムを構築してもよい。具体的には、サーバ装置100に、傷病名毎の定額料金を格納する定額料金格納手段としての定額料金DBと、処置毎または薬剤毎の単価を格納する単価格納手段としての単価DBとを設ける。また、サーバ装置100に、傷病名と処置の内容または処方の内容とが特定された際、定額料金DBに格納された情報に基づいて、特定された傷病名の定額料金を取得すると共に、定額料金DBおよび単価DBに格納された情報に基づいて、当該特定された処置の内容または当該特定された処方の内容に対する合計金額を算定し、これら定額料金と合計金額とを出力させる金額算定手段としての金額算定処理部を設ける。

【0156】そして、オーダー画面において、傷病名が入力された際に、金額算定処理部は、この傷病名の定額料金を上記定額料金DBから呼び出してオーダー画面に表示させる。また、処置名や薬剤名がオーダー画面に入力される毎に、金額算定処理部は、これら入力された処置名や薬剤名に対応する単価を単価DBから呼び出して、その合計金額を算定して、この合計金額をオーダー画面に表示させる。このシステムによれば、定額料金に対する、現在の処置および処方の料金を容易に把握することができる。

【0157】また、実施形態において説明した各処理のうち、自動的に行なわれるものとして説明した処理の全部または一部を手動的に行うこともでき、あるいは、手動的に行なわれるものとして説明した処理の全部または一部を公知の方法で自動的に行うこともできる。この他、上記文書中や図面中で示した処理手順、制御手順、具体的名称、各種の登録データや検索条件等のパラメータを含む情報については、特記する場合を除いて任意に変更することができる。また、サーバ装置100の各種情報や処理機能をクライアント装置200に保持させることもでき、あるいは、クライアント装置200の各種情報や処理機能をサーバ装置100に保持させることもできる。

【0158】また、上記サーバ装置100の構成は機能概念的なものであり、必ずしも物理的に図示の如く構成されていることを要しない。例えば、サーバ装置100の各サーバが備える処理機能、特に制御部140にて行

なわれる各処理機能については、その全部または任意の一部を、CPU (Central Processing Unit) および当該 CPU にて解釈実行されるプログラムにて実現することができ、あるいは、ワイヤードロジックによるハードウェアとして実現することも可能である。なお、プログラムは、図示しない本記録媒体に記録されており、必要に応じてサーバ装置 100 に機械的に読み取られる。さらに、サーバ装置 100 の分散・統合の具的形態は図示のものに限られず、その全部または一部を、各種の負荷等に応じた任意の単位で、機能的または物理的に分散・統合して構成することができる。

【0159】また、クライアント装置 200 の制御部 210 は、その全部または任意の一部を、CPU および当該 CPU にて解釈実行されるプログラムにて実現することができる。すなわち、ROM 220 または HD 240 には、OS (Operating System) と協働して CPU に命令を与え、各種処理を行うためのコンピュータプログラムが記録されている。このコンピュータプログラムは、RAM 230 にロードされることによって実行され、CPU と協働して制御部 210 を構成する。しかしながら、このコンピュータプログラムは、クライアント装置 200 に対して任意のネットワークを介して接続されたアプリケーションプログラムサーバに記録されてもよく、必要に応じてその全部または一部をダウンロードすることも可能である。このあるいは、各制御部 210 の全部または任意の一部を、ワイヤードロジック等によるハードウェアとして実現することも可能である。

【0160】また、サーバ装置 100 とクライアント装置 200 とを接続するネットワークや、サーバ装置 100 とレセプト処理サーバ装置 400 とを接続するネットワークとしては、上述したネットワークに限られず、任意のネットワークを利用することができる。例えば、限定されたエリア内で LAN、WAN あるいはパソコン通信網を用いて、本システムを構築することができる。また、その他にも、地上波、CATV、CS、BS、あるいは、ISDB (Integrated Services Digital Broadcasting) を用いて、各種データを送受信することができる。すなわち、ネットワークには、有線ネットワークのみならず、これら無線・通信ネットワークを含めることができる。

【0161】また、「コンピュータ読み取り可能な記録媒体」とは、フロッピー (登録商標) ディスク、光磁気ディスク、ROM、EPROM、EEPROM、CD-ROM、MO、DVD 等の任意の「可搬用の物理媒体」や、各種コンピュータシステムに内蔵される ROM、RAM、HD 等の任意の「固定用の物理媒体」、あるいは、LAN、WAN、インターネットに代表されるネットワークを介してプログラムを送信する場合の通信回線や搬送波のように、短期にプログラムを保持する「通信媒体」を含むものとする。

【0162】また、「プログラム」とは、任意の言語や記述方法にて記述されたデータ処理方法であり、ソースコードやバイナリコード等の形式を問わない。なお、「プログラム」は必ずしも単一的に構成されるものに限られず、複数のモジュールやライブラリとして分散構成されるものや、OS (Operating System) に代表される別個のプログラムと協働してその機能を達成するものをも含む。なお、実施の形態に示した各装置において記録媒体を読み取るための具体的な構成、読み取り手順、あるいは、読み取り後のインストール手順等については、周知の構成や手順を用いることができる。

【0163】

【発明の効果】以上に説明したように、本発明によれば、傷病名を特定するための情報、処置の内容を特定するための情報、および、処方の内容を特定するための情報が格納される。したがって、これら各情報に対する検索等の各種の処理を行うことができ、医療情報を総合的に管理・活用等することができる。

【0164】また、本発明によれば、医学病名を特定するための情報と、保険病名を特定するための情報とが相互に関連付けて格納される。したがって、医学病名から保険病名を導くことや、保険病名から医学病名を導くこと等を容易に行うことができ、医師が使用したい医学病名と、レセプト集計時に必要になる保険病名とを容易に切り替えて使用することができる。

【0165】また、本発明によれば、医療に関する情報のキーワードが格納され、選択されたキーワードが、医療に関する情報の入力内容として受け付けられる。したがって、医療に関する情報の入力を、キーワードを用いて行うことができ、入力ミスや非標準の言葉による入力を回避することができる。また、このように標準的な言葉によって入力が行なわれるので、情報検索時の検索効率を高めることができる。

【0166】また、本発明によれば、各傷病名に該当する患者に行う処置の内容または処方の内容を特定するための情報が格納され、患者の傷病名が特定された際、患者に対して行う処置の内容または処方の内容が出力される。したがって、処置や処方の内容を入力する際、これらの内容を個別的に入力しなくても、所定の内容を容易に入力することができる。このため、入力が容易になると共に、入力ミスを防止することができる。また、医療法人毎に、標準的な処置や処方の方針が異なる場合においても、この標準的な処置や処方を容易に選択することができるので、標準処置や標準処方の使い分けやその徹底が容易になる。

【0167】また、本発明によれば、各傷病名を特定するための情報と、各傷病名に該当する患者に行うべき処置の内容または処方の内容との、相互の整合性に関する情報が格納され、傷病名と、処置の内容または処方の内容とが特定された際、当該特定された傷病名と処置の内

容または処方の内容との相互の整合性が判断される。したがって、傷病名に対して不適切な処置の内容または処方の内容がある場合には、その旨を容易に確認することができ、入力ミスや判断ミス等を防止することができる。

【0168】また、本発明によれば、患者が医療に関与した時間に関する情報が格納され、この時間に関する分析が行なわれる。したがって、医療コストにおいて最も大きな比重を占める医師の件数等を把握したり、その他、様々な観点から時間的数値を把握することができるので、病院の経営改善等を容易かつ的確に行うことができる。

【0169】また、本発明によれば、各処置または各処方を行なった際の保険点数が格納され、保険点数が計算される。特に、傷病名、処置、あるいは、処方が行なわれる毎に保険点数が計算されるので、この保険点数をオーダー画面に出力すること等によってほぼリアルタイムに確認することができ、保険点数を把握しながらオーダーを行うことが可能になる。

【0170】また、本発明によれば、各処置または各処方を行なった際の保険点数が格納され、レセプト出力に必要な数値が集計される。したがって、この数値を印刷等することによって、レセプトを発行等することができ、レセプト処理を容易に行うことができる。

【0171】また、本発明によれば、傷病名毎の定額料金と、処置毎または処方毎の単価とが格納され、処置の内容または当該特定された処方の内容に対する合計金額が算定され、定額料金と合計金額とが出力される。したがって、医療料金が定額制に移行したような場合において、この定額料金と、処置や処方の合計料金を容易に把握および比較することができ、コストを意識しながら処置オーダー等を行うことができる。

【0172】また、本発明によれば、医療情報管理装置には、各患者の傷病名を特定するための情報と、各患者に対する処置の内容を特定するための情報と、各患者に対する処方の内容を特定するための情報とが格納され、レセプト集計処理装置には、各処置または各処方を行なった際の保険点数が格納され、レセプト出力に必要な数値の集計が行なわれる。したがって、この数値を印刷等することによって、レセプトを発行等することができ、レセプト処理を容易に行うことができる。特に、この場合には、複数の病院等に配置された医療情報管理装置からの情報に基づいて、これら各病院のレセプトの集計をレセプト集計処理装置において集中的に行うことができる。したがって、複雑で高価なシステムを個別的に導入する経済的負担が軽減され、また、法改正や薬価改正等に伴うシステム変更を容易に行うことができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の実施の形態における本システムの全体構成を示すブロック図である。

【図2】サーバ装置の構成を示すブロック図である。

【図3】クライアント装置の構成を示すブロック図である。

【図4】問診処理の一例を示すフローチャートである。

【図5】整合性処理の一例を示すフローチャートである。

【図6】保険点数処理の一例を示すフローチャートである。

【図7】ネットワークベースでのレセプト処理を行うシステムの全体構成を示すブロック図である。

【図8】メイン画面の表示例を示す図である。

【図9】患者新規画面の表示例を示す図である。

【図10】保険情報登録画面の表示例を示す図である。

【図11】公費情報登録画面の表示例を示す図である。

【図12】受付画面の表示例を示す図である。

【図13】受付状況画面の表示例を示す図である。

【図14】診察記録画面の表示例を示す図である。

【図15】最初に表示すべき問診情報の入力用画面の表示例を示す図である。

【図16】2番目に表示すべき問診情報の入力用画面の表示例を示す図である。

【図17】3番目に表示すべき問診情報の入力用画面の表示例を示す図である。

【図18】診療メモ画面の表示例を示す図である。

【図19】キーワード集画面の表示例を示す図である。

【図20】オーダー画面の表示例を示す図である。

【図21】傷病名入力用画面の表示例を示す図である。

【図22】高頻度傷病名画面の表示例を示す図である。

【図23】既往病名画面の表示例を示す図である。

【図24】傷病名一覧画面の表示例を示す図である。

【図25】ツリー画面の表示例を示す図である。

【図26】オリジナル傷病名の登録用画面の表示例を示す図である。

【図27】処置入力用画面の表示例を示す図である。

【図28】セット画面の表示例を示す図である。

【図29】処置一覧画面の表示例を示す図である。

【図30】処方入力用画面の表示例を示す図である。

【図31】高頻度薬剤画面の表示例を示す図である。

【図32】過去処方画面の表示例を示す図である。

【図33】作用別画面の表示例を示す図である。

【図34】適用別画面の表示例を示す図である。

【図35】薬剤名一覧画面の表示例を示す図である。

【図36】診断書作成画面の表示例を示す図である。

【図37】紹介状の返事の作成画面の表示例を示す図である。

【図38】会計画面の表示例を示す図である。

【符号の説明】

100 サーバ装置

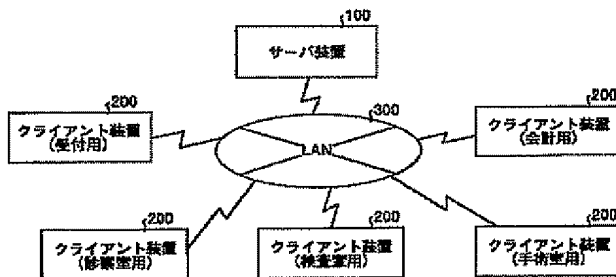
101 患者DB

102 医師DB

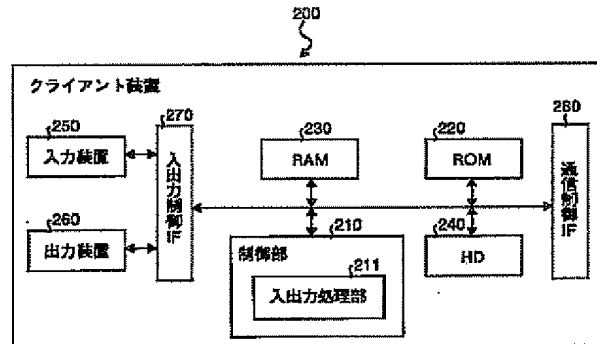
103 傷病オーダーDB
 104 処置オーダーDB
 105 処方オーダーDB
 106 問診DB
 107 診療メモDB
 108 受付DB
 109 診察DB
 110 検査DB
 111 手術DB
 112 会計DB
 113 病名DB
 114 処置DB
 115 材料DB
 116 薬剤DB
 117 薬剤作用DB
 118 薬剤適用DB
 119 セットDB
 120 自動提示DB
 121 高頻度DB
 122 入力順序DB
 123 キーワードDB
 124 処置整合性DB
 125 処方整合性DB
 126 診察履歴DB
 127 保険点数DB
 128 レセプト計算結果DB
 130 通信制御IF

* 140 制御部
 141 データベースアクセス部
 142 受付処理部
 143 診察処理部
 148 入力順序処理部
 149 キーワード処理部
 150 セット処理部
 151 整合性処理部
 152 保険点数計算処理部
 10 153 時間分析処理部
 144 検査処理部
 145 手術処理部
 146 会計処理部
 147 レセプト集計処理部
 200 クライアント装置
 210 制御部
 211
 220 ROM
 230 RAM
 20 240 HD
 250 入力装置
 260 出力装置
 270 入出力制御IF
 280 通信制御IF
 300 LAN
 400 レセプト処理サーバ装置
 * 500 インターネット

【図1】



【図3】



【図11】

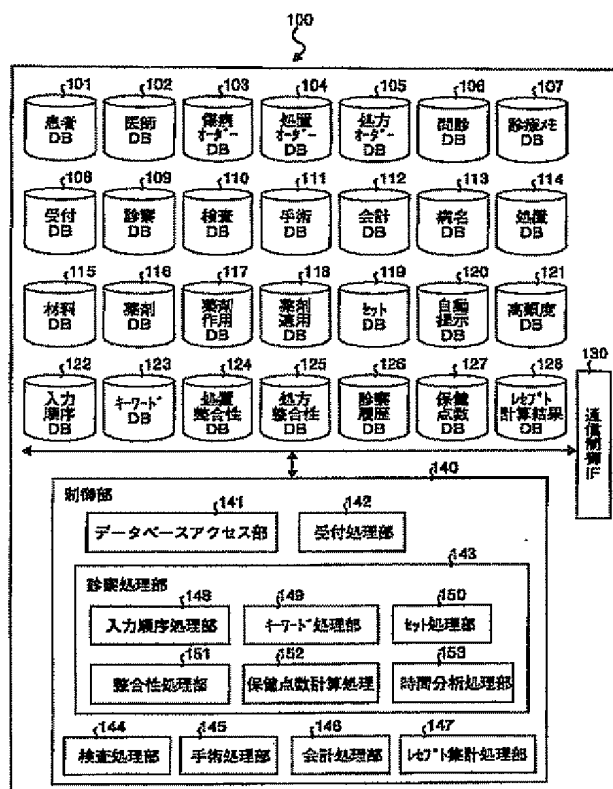
公費情報登録

負担者番号	<input type="text"/>
公費区分	<input type="text"/>
受給者番号	<input type="text"/>
有効期限(L)	<input type="text"/>
資格取得日(S)	<input type="text"/>
<input type="button" value="OK"/> <input type="button" value="キャンセル"/>	

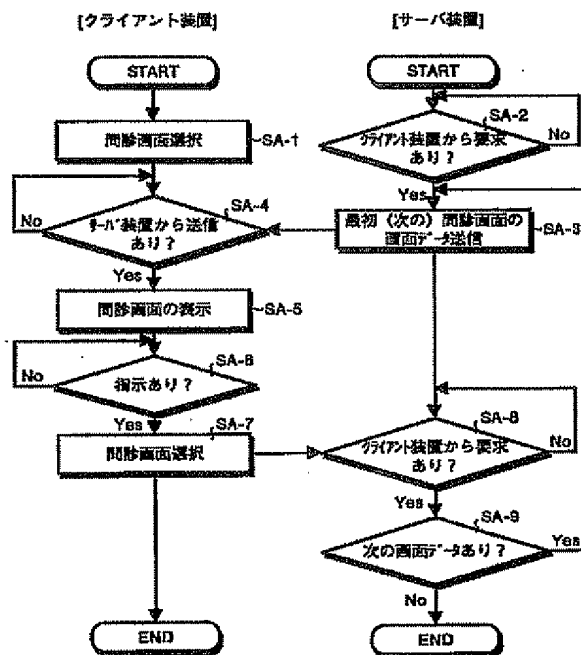
MC-1

MC-2

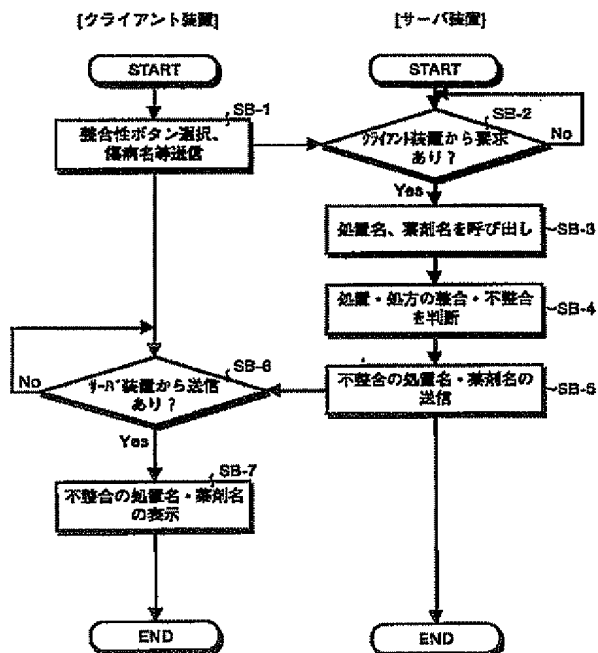
【図2】



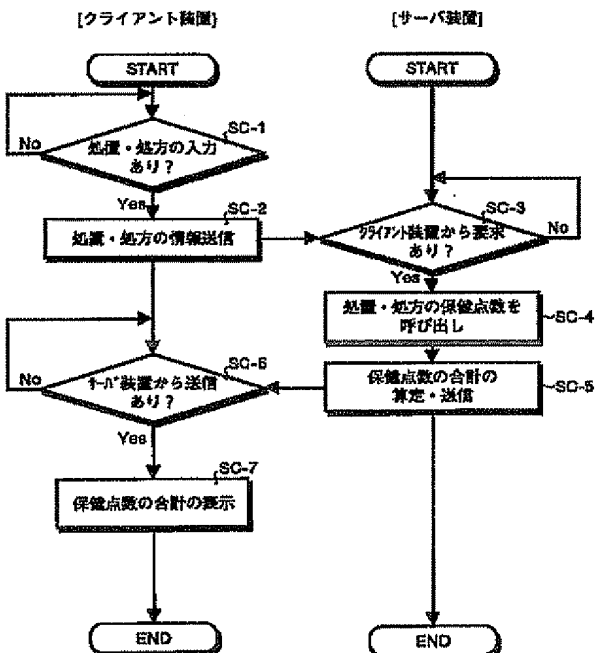
【図4】



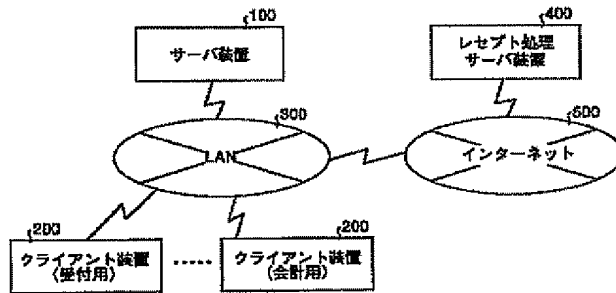
【図5】



【図6】



【図7】



【図8】

図8は、医療情報管理システムのメインメニュー画面のスクリーンショットである。メニュー項目には「ファイル(F)」、「表示(V)」、「患者(P)」、「書類(S)」、「分析(A)」、「ツール(T)」、「ヘルプ(H)」があり、サブメニューとして「受付状況」、「医療情報管理システム」が表示されている。

【図9】

図9は、患者新規登録画面のスクリーンショットである。画面には「基本情報」、「保険」、「公費」のタブがあり、現在「基本情報」が選択されている。入力項目には「カルテ番号」、「生年月日(日)」、「性別」、「フリガナ」、「患者名」、「職業」、「住所」、「TEL」、「紹介者」などがあり、各項目には入力補助機能（例：MA-1, MA-2, MA-3, MA-4）が割り当てられている。下部には「カルテ印刷(P)」、「OK(O)」、「キャンセル」、「適用(A)」のボタンがある。

【図10】

図10は、保険情報登録画面のスクリーンショットである。入力項目には「開始日(S)」、「終了日(F)」、「保険者番号」、「被保険者記号・番号」、「保険種別」、「続柄」、「被保険者名」、「有効期限(L)」、「資格取得日(S)」、「事務所の所在地」、「保険者の所在地」などがあり、各項目には入力補助機能（例：MB-1, MB-2）が割り当てられている。下部には「OK(O)」、「キャンセル」のボタンがある。

【図12】

図12は、受付画面のスクリーンショットである。画面には「基本情報」、「初診/再診の設定」、「基本情報」のセクションがあり、各項目には入力補助機能（例：MD-1, MD-2, MD-3）が割り当てられている。下部には「キャンセル」のボタンがある。

【図17】

図17は、アレルギー設定画面のスクリーンショットである。画面には「アレルギーを設定します。」というメッセージがあり、アレルギーの種類（例：ペニシリン、セファム、ビリン、その他、ダニ、花粉、そば、サバ、ハウスダスト、ネコ）を選択するためのチェックボックスが並んでいる。下部には「OK」、「キャンセル」のボタンがある。

【図13】

ME-1

受付状況	患者名	フリガナ	予約番号	初診/再診	状況	受付	会計	滞在	担当医
医療情報管理システム	001 松下 通也	マツタツタ	101	再診	診察待	診察待			
受付状況	002 井上 朗	イノエマツ	103	初診	診察待	診察待			
全ての患者	003 中島 竜一	ナカシマツタ	102	初診	診察待	診察待			
保存した検索条件									
MDRから" "									
履歴									

【図14】

MF-1 MF-2 MF-3 MF-4

診療記録

ファイル(F) 表示(V) 患者(P) 検索(S) 分析(A) ツール(T) ヘルプ(H)

患者基本情報 | 問診 | 診療メモ | オーダー

患者の基本情報を設定します。

基本情報

カルテ番号: 103

患者名: 東京花子

フリガナ: トウキョウハナコ

生年月日: 昭和14年5月3日 60歳2ヶ月

性別: 女

職業: 主婦

住所: 〒333-3333 東京都〇〇〇〇〇 ΔΔXX

TEL: 03-XXXX-XXXX

登録日: 07/12/1999

傷病名

現病名: 治療開始日:

既往歴(C) マスク取り外し(M)

紹介者

紹介者名: 種別: 施設名:

【図15】

MG-2

診療記録

ファイル(F) 表示(V) 患者(P) 検索(S) 分析(A) ツール(T) ヘルプ(H)

患者基本情報 | 問診 | 診療メモ | オーダー

問診内容を設定します。

問診開始

問診内容(症状、アレルギー、他科、疾患、家族歴、妊婦、眼科既往歴、その他特記事項)。

開始日	種別	番号	経緯	内容

MG-1

【図19】

キーワード集

正常セット

AO shallow(+/-) AO shallow(-/-)

Cornea(+/-) Cornea(-/-)

Lense opacity(+/-) Lense opacity(-/-)

Fds problem(+/-) Fds problem(-/-)

Fluo staining(+/-) Fluo staining(-/-)

Epithel defect(+/-) Epithel defect(-/-)

その他の単語

Cau FKO(#, #, #, #, #, #)

Iare REI(#, #, #, #, #, #)

Kps

ドライアイセット

CLセット

Fitting good

Alignment good

Centering good

白内障セット

IOL np

After Cat(-)

PKセット

上段 np

下段 np

Edema np

閉じる

MI-1

【図22】

高頻度

糖尿病網膜症

高血圧性眼病

網膜静脈閉塞症

黄斑変性

網膜周边部変性

網膜色素上皮変性

ぶどう膜炎

緑内障

白内障

遠視性乱視

近視性乱視

混合乱視

老視

調節緊張(症)

調節疲労

点状表層角膜炎

削除

ML-1

【図16】

診療記録

症状及び目的を指定します。
部位、症状等を選び追加を押し、その後OKを押します。

☒ 眼症状 ☐ 一般症状・目的

眼情報

☒ 両眼 ☐ 右眼 ☐ 左眼

<input type="checkbox"/> 視力低下	<input type="checkbox"/> 痛み	<input type="checkbox"/> 眼瞼腫れ
<input type="checkbox"/> かすみ	<input type="checkbox"/> 異物感	<input type="checkbox"/> ものもらい
<input type="checkbox"/> 変視	<input type="checkbox"/> かゆみ	<input type="checkbox"/> 乾燥
<input type="checkbox"/> 視野	<input type="checkbox"/> 眩暈	<input type="checkbox"/> コンタクト
<input type="checkbox"/> まぶしい	<input type="checkbox"/> 充血	<input type="checkbox"/> 検査
<input type="checkbox"/> 飛蚊症	<input type="checkbox"/> EKC疑い	

その他

一般症状・目的

☐ 腫れ
☐ 眼痛
☐ 相談
☐ コンタクト
☐ 検査

OK キャンセル

思い当たる原因

☐ けが
☐ コンタクトレンズ
その他

発症時期

☐ 当日から
☐ 数日から
☒ 以前から

症状期間 日から 前まで

追加 削除

<両眼>視力低下; 痛み; 乾燥 [1日前から] 原因: コンタクトレンズ

【図23】

既往病名

傷病名
☐ 緑内障

【図24】

【図18】

東京花子-診療記録

ファイル(F) 表示(V) 患者(P) 書影(S) 分析(A) ツール(T) ヘルプ(H)

患者基本情報 | 既診 | 診療メモ | オーダー

診療メモを記入します。

今回記入する診療メモ MH-1

以前に記入したメモ

キーワード集 MH-3

記録終了 MH-2

MO-1 MO-2

検索する文字列 次を検索(T)

傷病名

- ☐ 日光網膜炎
- ☐ 乳頭萎縮
- ☐ 網膜状網膜剥離
- ☐ 眼瞼腫
- ☐ 白内障
- ☐ 慢性性眼結膜炎
- ☐ 発育性眼内腫
- ☐ 網膜症候群
- ☐ 網膜病
- ☐ 慢性性眼瞼外反症
- ☐ 慢性性眼瞼内反症
- ☐ 慢性性トラコーマ
- ☐ 慢性性角膜炎ジストロフィー
- ☐ 慢性性角膜炎
- ☐ 半側視野欠損

【図25】

MP-1 MP-2

傷病名ツリー

検索する文字列 次を検索(T)

OS 角膜炎の疾患

- ☐ アントアメラバ角膜炎
- ☐ 円錐角膜
- ☐ カイザーフライシャー輪
- ☐ 角膜移植
- ☐ 角膜異物
- ☐ 角膜炎
 - ☐ ウイルス性表層角膜炎
 - ☐ 円錐状角膜炎
 - ☐ 化膿性角膜炎
 - ☐ 外傷性角膜炎
 - ☐ 樹枝状角膜炎
 - ☐ 水疱性角膜炎(*)
 - ☐ 点状表層角膜炎
 - ☐ 膜層角膜炎
 - ☐ 辺縁角膜炎
 - ☐ 薬物性角膜炎
- ☐ 角膜潰瘍

【図20】

清水 健介 - 診療記録

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) 実行(R) 分析(A) ツール(T) ヘルプ(H)

患者基本情報 | 問診 | 診療メモ | オーダー

オーダーを入力します。

傷病名(D)

項目	傷病名	診療	開始日
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			

処置(D)

項目	処置名	回数	点数
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			

処方(M)

項目	薬名	用量/日	回数/日	経路	指示	点数
1						
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						

コメント(M) 印刷(P) 自動保存(A) 整合性(C) 不整合確認(C) 初診/再診(Y) 既往歴(C)

MJ-1 MJ-2 MJ-3 MJ-4 MJ-5 MJ-6 MJ-7 MJ-8

【図21】

傷病入力

傷病名を設定します。

高頻度 既往病名 一覧 傷病名カ-

傷病名情報

検索語

傷病名

接尾語

治療開始日

☐ 主病名にする ☐ 保険病名

追加(A) 削除(D)

傷病名

科目

OK

キャンセル

プロパティ

オリジナル傷病名

高頻度に設定

高頻度から削除

MK-1 MK-2 MK-3 MK-4 MK-5 MK-6 MK-7 MK-8

【図26】

オリジナル傷病名の設定

オリジナル傷病名を設定します。
*関連傷病名には、[同義傷病]、[オリジナル傷病] を設定できません。

傷病名ツリー

検索する文字列

次を検索(T)

☐ 視力障害
☐ 一過性視力障害
☐ 遠視
☐ 近視
☐ 高度視力低下
☐ 失明
☐ 全般的視力障害
☐ 視力低下
☐ 心因性視力障害
☐ 片眼視力障害
☐ 老眼
☐ 全盲
☐ 弱視
☐ 閃輝性暗点症
☐ 網膜剥離(症)
☐ 網膜不全
☐ 内眼筋麻痺
☐ 複視

病名設定

関連傷病名 MQ-3

視力障害

オリジナル傷病名 MQ-4

心因性視力障害

フリガナ

シンセイシヨクゴカイ

関係

☒ 下位
☐ 同義
☐ 類似

傷病コード

20

OK

*保険請求上は、既存の傷病名で行なわれます。

MQ-1

MQ-2

MQ-5

閉じる

プロパティ

【図27】

処置入力

検査・処置情報を設定して下さい。

セット

初診セット31

初診セット32

再診セット1

再診セット2

再診セット3

再診セット4

再診セット5

再診セット6

再診セット7

再診セット8

再診セット9

再診セット10

再診セット11

再診セット12

再診セット13

再診セット14

再診セット15

再診セット16

再診セット17

再診セット18

処置名

処置情報

処置名

点数

回数

追加(A)

削除(D)

傷病名

科目

MR-1

OK

キャンセル

【图 29】

セツト

MR-1

- ☐ 初診セツト31
- ☐ 初診セツト32
- ☐ 再診セツト1
- ☐ 再診セツト2
- ☐ 再診セツト3
- ☐ 再診セツト4
- ☐ 再診セツト5
- ☐ 再診セツト6
- ☐ 再診セツト7
- ☐ 再診セツト8
- ☐ 再診セツト9
- ☐ 再診セツト10
- ☐ 再診セツト11
- ☐ 再診セツト12
- ☐ 再診セツト13
- ☐ 再診セツト14
- ☐ 再診セツト15
- ☐ 再診セツト16
- ☐ 再診セツト17
- ☐ 再診セツト18

処置名

MR-2

- ☐ 角膜炎異物除去術と角膜保護
- ☐ 角膜異物除去術
- ☐ 角膜異物多数同時除去
- ☐ 精密剥皮(両)
- ☐ 精密剥皮
- ☐ リットM(前眼部)
- ☐ リットM(前眼部)様生体染色

一覧

MS-1

MS-2

△全ての検査・処置

- ☐ 処置
- ☐ 手術・麻酔
- ☐ 指導
- ☐ 注射
- ☐ 自費
- ☐ 検査
- ☐ 処置薬剤
- ☐ 材料
- ☐ 特定医療材料
- ☐ 画像診断
- ☐ 診察・処方箋
- ☐ 独自設定
- ☐ 採血

△処置名

- ☐ (オトワレ-を)眼科処置
- ☐ 眼処置
- ☐ 眼薬・リット
- ☐ 病状に対する処置
- ☐ 結膜異物除去
- ☐ 雲粒膜の芽生
- ☐ 瞳孔除去(多数・片)
- ☐ 瞳孔除去(多数・両)
- ☐ 瞳孔除去(多数・上下眼輪、両)
- ☐ 瞳孔除去(多数・上下眼輪、片)
- ☐ 術後創傷処置1
- ☐ 術後創傷処置2
- ☐ 蒸気7法・熱気7法
- ☐ 人工呼吸(30分まで)
- ☐ 人工呼吸(30分超1時間)
- ☐ 人工呼吸(長時間超)
- ☐ 人工呼吸(1時間30分超2時間)
- ☐ 人工呼吸(2時間30分超3時間)

【图 30】

薬剤名と処方情報を設定します。				
高頻度	過去の処方	作用別	適用別	一覧
薬剤名	用法	指示	薬価	
<input type="checkbox"/> AZ点眼液0.02%5	1本4×	指示通り	11.7	
<input type="checkbox"/> インター点眼液100	1本4×	指示通り	113.95	
<input type="checkbox"/> エリシ点眼液	1本4×	指示通り	14.65	
<input type="checkbox"/> トメ-A0.1%点眼液	1本4×	指示通り	20	
<input type="checkbox"/> カルK点眼用0.0	1本4×	指示通り	19.35	
<input type="checkbox"/> カ-エ点眼液0.0	2本3×	指示通り	6.57	
<input type="checkbox"/> マラ0.02%5ml	1本4×	指示通り	9.52	
<input type="checkbox"/> 新Aリン点眼用10	1本4×	指示通り	15.55	
<input type="checkbox"/> リバット点眼液0.3%	1本4×	指示通り	83.75	
<input type="checkbox"/> テブトM0.5%	1本2×	指示通り	265.05	
<input type="checkbox"/> ニロン点眼液0.1%	1本4×	指示通り	38.25	
<input type="checkbox"/> エリン0.1%5ml	1本6×	指示通り	64.95	
<input type="checkbox"/> フルトン0.1%	1本4×	指示通り	50	
<input type="checkbox"/> Aストリン点眼用5	1本4×	指示通り	35.1	
<input type="checkbox"/> Aトプティカ0.5%点眼	1本2×	指示通り	287.5	
<input type="checkbox"/> Aミラスト点眼液5	1本2×	指示通り	117.26	
<input type="checkbox"/> Oワフの薬科耳料用	1本3×	指示通り	84.5	

処方情報	
薬剤名	<input type="text"/>
用量	<input type="text"/> 回数 <input type="text"/> 日数 <input type="text"/>
指示	<input type="text"/> ▼ <input type="text"/>
追加(A)	削除(D)

今回処方する薬剤		
薬剤名	用法	指示

MT-1

高頻度から削除(R)

【図31】

高頻度			
薬剤名	用法	指示	薬価
<input type="checkbox"/> AZ点眼液0.02%5	1本4×	指示通り	11.7
<input type="checkbox"/> イナ-8点眼液100	1本4×	指示通り	113.05
<input type="checkbox"/> エリシ点眼液	1本4×	指示通り	14.55
<input type="checkbox"/> トロメ-40.1%点眼液	1本4×	指示通り	20
<input type="checkbox"/> カルメ点眼液用0.0	1本4×	指示通り	19.35
<input type="checkbox"/> シ-ニ点眼液0.0	2本3×	指示通り	6.37
<input type="checkbox"/> コリ5点眼液0.02%5ml	1本4×	指示通り	9.52
<input type="checkbox"/> トラリ点眼液用10	1本4×	指示通り	15.55
<input type="checkbox"/> シリ-ット点眼液0.3%	1本4×	指示通り	83.75
<input type="checkbox"/> フェ-ト-10.5%	1本2×	指示通り	265.05
<input type="checkbox"/> コリ点眼液0.1%	1本4×	指示通り	36.25
<input type="checkbox"/> ヒリ-ン0.1%5ml	1本8×	指示通り	64.95
<input type="checkbox"/> フリ-ン0.1%	1本4×	指示通り	50
<input type="checkbox"/> A-スト点眼液用6	1本4×	指示通り	35.1
<input type="checkbox"/> A-トリ-ティ0.5%点眼	1本2×	指示通り	287.5
<input type="checkbox"/> A-ミリス点眼液5	1本2×	指示通り	117.28
<input type="checkbox"/> B-マ-リ眼科耳科用	1本3×	指示通り	84.5

高頻度から割除可

【図32】

過去の処方			
薬剤名	処方日	用法	指示
<input type="checkbox"/> イナ-8点眼液0.1	07/13/1	1本2×	指示通り
<input type="checkbox"/> フェ-ト-10.5%	07/13/1	1本2×	指示通り

【図33】

作用別	
薬剤名	薬価
<input type="checkbox"/> ケル-ト錠 100mg	248.2
<input type="checkbox"/> ケラ-ト錠 1250mg	76
<input type="checkbox"/> ケラ-ト錠 小児用100mg	63.8
<input type="checkbox"/> セラ-ト錠 100mg	113
<input type="checkbox"/> ケル-ト錠 100mg	117.1
<input type="checkbox"/> ケラ-ト錠 150mg	29.9
<input type="checkbox"/> ハ-グ-ト錠 200mg	111.4
<input type="checkbox"/> ハ-グ-ト錠 200mg	83.9
<input type="checkbox"/> ミノイシ錠 50mg	36.6
<input type="checkbox"/> マイ外錠 100mg	108.5

【図34】

適用別	
薬剤名	用法
<input type="checkbox"/> ケル-ト錠 0.1%5ml	1本5×

【図35】

検索する文字列:

薬剤名 薬価

<input type="checkbox"/> カリシ 1%0.5ml	15971
<input type="checkbox"/> カリシ 1%0.6ml	15979
<input type="checkbox"/> カリシ点眼用0.005%溶液	193.5
<input type="checkbox"/> カリシ錠 5mg	28.2
<input type="checkbox"/> カリシ点眼液 0.005%5ml	63.7
<input type="checkbox"/> カリシ錠 10国際単位	16
<input type="checkbox"/> カリシ錠 100国際単位	8189
<input type="checkbox"/> カリシ錠 50国際単位	32
<input type="checkbox"/> カリシ点眼液 500mg	2319
<input type="checkbox"/> カリシ錠10%	392.4
<input type="checkbox"/> カリシ錠2%	90.3
<input type="checkbox"/> カリシ錠10mg	46.7
<input type="checkbox"/> カリシ錠20mg	54
<input type="checkbox"/> カリシ錠66.7%	36.1
<input type="checkbox"/> カリシ点眼液 0.005%	2807
<input type="checkbox"/> カリシ点眼液1%	130
<input type="checkbox"/> カリシ点眼液2%	191

【図36】

診断書作成

☐ (東京 花子)の診断書を作成します。
診断書はExcelで確認、変更することができます。

◎直ちに印刷する。○Excelで確認、変更する。 ○プレビューを表示する。

下記の内容が設定されます。設定内容は変更することができます。

患者名 ☐ 両白内障の疑い

本文
 診断書
 文面
 上記疾患につき、
 平成11年7月19日
 より当院にて治療を行っている。(以下余白)

発行日 平成11年7月19日

OK キャンセル

【図37】

紹介者返事作成

☐ [東京 花子]の紹介者返事を作成します。
紹介者返事はExcelで確認、変更することができます。

作成オプション MW-5
☒ 直ちに印刷する。 ☐ Excelで確認、変更する。 ☐ プレビューを表示する。

本文
 傷病名 MW-1
 施設名 MW-2
 紹介者名
 種別 ☒ 医師 ☐ 一般

検査結果
☒ 視力 Vd=[0.00] ([0.00] X [-0.00] D cyl [-0.00] D Ax [000]
 Vd=[0.00] ([0.00] X [-0.00] D cyl [-0.00] D Ax [000]
☒ 聴圧 右=[0.00] mmHg 右=[-0.00] mmHg
☐ シメラスト 右=[0.00] 右=[-0.00]
☐ グラフシメラスト 右=[0.00] 右=[-0.00]
☐ 眼底 右=[] 右=[]

☐ 手術予定

MW-6 OK キャンセル

【図38】

会計

会計を行います。
【会計完了】を押すと、会計伝票、処方箋が発行されます。

患者名 山田太郎 保険 自費 10 割
 カルテ番号 8524 公費 公費区分 負担
 初診/再診 初診
 担当医 A医師

明細

種別	種別	内訳	金額
保険適用	処置	精密眼底(両)	¥1,120
		造影	¥760
		矯正視力	¥760
		精密聴圧	¥660
		角膜曲率	¥900
		眼底灯観察検査(前照器)	¥380
		初診(診察所)	¥2,700
		合計	¥7,450
		保険適用後の金額	¥7,450
		自費	なし
合計		¥0	
保険適用と自費の合計		¥7,450	
精算までの差額		¥0	

請求金額 ¥7,450 入金額 ¥7,450

会計完了 MX-1
 キャンセル
 変更
 紹介状加算追加
 紹介状加算取消し